



Agile Product Lifecycle Management

Product Quality Management ユーザー・ガイド

v9.3.0.2

部品番号: B61298-01

2011年3月

オラクル社の著作権について

Copyright © 1995, 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことによる損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することができます。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

オラクル社の著作権について	ii
第1章 Product Quality Management.....	1
始める前に	1
PQM 9.3 の新機能	1
Product Quality Managementの概要	2
製品サービス依頼	2
問題レポート	3
不具合レポート	3
品質変更要求	3
検証	3
是正・予防処置	4
品質追跡	4
品質追跡の役割	4
品質追跡プロセス	4
品質関連のスマートルール	5
品質検索	5
品質レポート	6
不具合トレンド・レポート	6
品質状況レポート	8
品質バックログ・レポート	10
品質サイクル時間レポート	11
品質メトリックス・レポート	13
品質追跡に利用できるタブ	15
顧客およびサプライヤに対する品質問題の表示	15
第2章 製品サービス依頼 (PSR) を使用する	17
PSRを作成する	17
製品サービス依頼の作成	17
アイテムからのPSRの作成	18
他の複数のPSRを集約するPSRの作成	19
「名前を付けて保存」を使用したPSRの作成	20
PSRまたはQCRの検索	21
PSRの「カバー・ページ」タブ	21
PSRのカバー・ページの更新	23
PSRの「対象アイテム」タブ	25
NCRの「対象アイテム」タブの属性	26
PSRの「対象アイテム」タブへのアイテムの追加	27
「対象アイテム」タブからのアイテムの削除	29
「対象アイテム」タブのアイテムの編集	29
「関連PSR」タブ	30
関連PSRを親PSRに追加する	32
「関連PSR」タブのアイテムの編集	33

関連PSRを削除する	34
「関係」タブ	34
関係 - テーブル	35
PQMにおける関係	38
関係の属性	39
「関係」タブのツール	39
「関係」テーブル	39
PSRの「関係」タブへのオブジェクトの追加	40
「関係」テーブルの編集	41
関係の削除	42
関係ルール	42
関係ルールの追加	42
関係ルールの編集	43
関係ルールの削除	44
フィルタ	44
PSRの「ワークフロー」タブ	45
PSRを提出、ルートする	46
PSRの「添付ファイル」タブ	46
PSRへの添付ファイルの追加	47
PSRからの添付ファイルの削除	48
第3章 品質変更要求を使用する	49
QCRを作成する	49
「名前を付けて保存」を使用したQCRの作成	50
アイテムからのQCRの作成	51
PSRからのQCRの作成	52
QCRの「カバー・ページ」タブ	52
QCRのカバー・ページの更新	55
QCRの「対象アイテム」タブ	55
QCRの「関係」タブ	57
QCRの「ワークフロー」タブ	57
QCRを提出、ルートする	59
QCRの「添付ファイル」タブ	59
第4章 製品サービス依頼の管理	61
製品サービス依頼の承認または却下	61
PSRを終了する	62
PSRの「アクション」メニュー	62
PSRのステータスの検証	62
PSRのリリースの検証	63
第5章 QCRを管理する	65
品質変更要求の承認または却下	65
QCRを終了する	66
QCRの「アクション」メニュー	66
QCRの変更指示	66

付録A Agileオブジェクトの削除.....	69
PSRオブジェクトまたはOCRオブジェクトの削除に関する注意事項.....	69
オブジェクトのソフト削除.....	70
オブジェクトの削除の取消し.....	70
オブジェクトのハード削除.....	71

はじめに

Agile PLMマニュアル・セットにはAdobe® Acrobat PDFファイルが含まれます。[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) には、Agile PLMの最新版のPDFファイルがあります。このWebサイトのマニュアルは、その場で表示することもダウンロードして使用することもできます。また、使用しているネットワーク上のAgile PLMマニュアル・フォルダにAgile PLMマニュアル (PDF) ファイルが格納されている場合もあります。詳細は、Agile管理者にお問い合わせください。

注意 PDFファイルを表示するには、Adobe Acrobat Readerのバージョン 7.0 以降（無料）を使用する必要があります。このプログラムは、[Adobe社のWebサイト](http://www.adobe.com) (<http://www.adobe.com>) からダウンロードできます。

[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) は、Agile WebクライアントとAgile Javaクライアントのいずれの場合も、「ヘルプ」>「マニュアル」の順に選択してアクセスできます。さらに疑問点がある場合やサポートが必要な場合は、My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) にお問い合わせください。

注意 Agile PLM マニュアルに関する問題について Oracle サポートにお問い合わせいただく前に、タイトル・ページにある部品番号をご準備ください。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800) 446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

Readme

Agile PLMの最新情報は、すべて[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) にあるReadmeファイルに記載されています。

Agile トレーニング支援

Agile トレーニングの講義内容詳細は、[Oracle University Webページ](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) (http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) にアクセスしてください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読みない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関する評価や言及は行っておりません。

Product Quality Management

この章のトピック

■ 始める前に	1
■ PQM 9.3 の新機能	1
■ Product Quality Management の概要	2
■ 製品サービス依頼	2
■ 品質変更要求	3
■ 品質追跡	4

始める前に

このマニュアルでは、会社で Agile PLM をインストールしている場合に Agile Product Quality Management ソリューションを使用する方法について説明します。Agile PLM をインストールするには、該当するインストール・マニュアルを使用します。Agile PLM をインストールし、Agile オブジェクト、Agile クラス、それらのアプリケーションおよび動作を理解する際には、次に示すマニュアルを参照してください。

- 『Agile PLM Database Installation Guide』
- 『Agile PLM インストール・ガイド（Oracle Application Server 用）』
- 『Agile PLM インストール・ガイド（WebLogic Server 用）』
- 『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』
- 『Agile Product Lifecycle Management 管理者ガイド』

すべての Agile PLM モジュールで使用されている共通用語の詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

PQM 9.3 の新機能

Agile PLM 9.3 ユーザー・インターフェース全体が変更されたため、PQM モジュールでもいくつかの変更が行われています。一般的な拡張機能およびリンクを次に示します。各リンクから、PQM の一般的な機能に関する詳細なドキュメントにアクセスできます。

Agile PLM 全体の一般的な拡張機能は次のとおりです。

- 「プレビュー」 ウィンドウは「クイック・ビュー」に置き換えられました。カーソルをオブジェクトに合せると、「クイック・ビュー」 ダイアログ・ボックスが表示されます。ダイアログにオブジェクトの詳細が表示され、いくつかのアクションを実行できます。
- 拡張された追加機能により、ドラッグ・アンド・ドロップ・オプションまたはコピー・アンド・ペースト・オプションを使用して、オブジェクトを迅速に追加または削除できます。
- Web クライアントのフィルタ・オプションのかわりに、「表示」および「パーソナライズ」メニューが使用されます。39 ページの「[「関係」テーブル](#)」も参照してください。
- 「関係」テーブルおよび「クイック・ビュー」 ダイアログ・ボックスで「ルールの編集」 ボタンを使用できるようになりました。

Agile PQM の一般的な機能は次のとおりです。

- **アイテムからの PSR の作成:** アイコンが変更されました。Web クライアントのフィルタ・オプションのかわりに、「表示」および「パーソナライズ」メニューが使用されます。
- **PSRおよびQCRの検索:** 「簡易検索の実行」、「カスタム検索」および「詳細検索」の結果により、指定された条件に一致するPSRまたはQCRが戻されます。詳細は、21 ページの「[PSRまたはQCRの検索](#)」を参照してください。
- **「名前を付けて保存」を使用したPSRの作成:** 追加機能により、「添付ファイル」を使用してPSRをコピーするときに、既存のファイルを参照するか、ファイルの新しいコピーを作成するか、またはファイルを含まないように指定できるようになりました。20 ページの「[「名前を付けて保存」を使用したPSRの作成](#)」の手順 5 を参照してください。
- **PSR からの QCR の作成:** アイコンが変更されました。Web クライアントのフィルタ・オプションのかわりに、「表示」および「パーソナライズ」メニューが使用されます。
- **PSR の「対象アイテム」タブへのアイテムの追加:** 「検索」/「作成」ボタンを使用して、PSR の「対象アイテム」タブにアイテムを追加できます。既存のアイテムを検索する場合は 27 ページの[検索して追加](#)に関する項、新しいアイテムを作成する場合は 27 ページの[作成して追加](#)に関する項を参照してください。ドラッグ・アンド・ドロップ・オプションおよびコピー・アンド・ペースト・オプションを使用することで、オブジェクトを迅速に追加できるようになりました。27 ページの「[PSR の「対象アイテム」タブへのアイテムの追加](#)」も参照してください。
- **PSR の「関係」タブへのオブジェクトの追加:** 追加機能が拡張され、「関係」テーブルおよび「クイック・ビュー」ダイアログ・ボックスのメッセージ・バーに「ルールの編集」が表示されるようになりました。40 ページの「[PSR の「関係」タブへのオブジェクトの追加](#)」、42 ページの「[関係ルールの追加](#)」、43 ページの「[関係ルールの編集](#)」も参照してください。
- **顧客またはサプライヤに対する品質問題の表示:** 拡張された検索結果により、PSR、QCR、顧客およびサプライヤに関する品質問題を表示できます。
15 ページの「[顧客およびサプライヤに対する品質問題の表示](#)」も参照してください。

Product Quality Managementの概要

Agile PQM は、世界中の主要なビジネス組織で現在使用されている強力なソリューションです。Agile PQM にはデータの追跡および管理に使用される革新的な手法が含まれており、品質（製品の向上）、生産性（時間サイクルの短縮）および信頼性（障害ゼロ）の向上につながります。このソリューションの柔軟性により、多くのビジネス・ベンチャでソリューションの統合が強化されます。ソリューションには、顧客の不満、製品や製造の欠陥、フィールド障害、および拡張と是正・予防処置などがあります。Agile PQM は、顧客サービス、フィールド・セルス、製造、およびエンジニアリングにおける企業の組織を統合して、組織を顧客やパートナーと結び付けることにより、互いの協力関係を作り上げます。

かわりとなる品質管理パッケージが市場に参入するのに伴い、顧客は最小のコストおよび短い製品ライフサイクルで質の高い製品を求めています。顧客から報告された品質問題は、欠陥を検出し、確実に解決するのに役立ちます。効率よく欠陥を低減し、製品の品質を向上させるには、タイムリーな欠陥の検出、根本原因の特定が重要です。

Agile PQM ソリューションには、製品サービス依頼 (PSR) と品質変更要求 (QCR) があります。PSR は、問題レポートと不具合レポートを管理します。QCR により、検証や是正・予防処置 (CAPA) が作成および管理されます。

製品サービス依頼

製品サービス依頼では、品質問題が報告され、その他の多数のPSRが 1 つのPSRに集約されます。PSR のクラスには、問題レポート (PR) と不具合レポート (NCR) があります。PR では一般的な品質問題が報告され、NCR ではマテリアルの仕様違反やその他の特定の品質問題が報告されます。詳細は、17 ページの「[製品サービス依頼 \(PSR\) を使用する](#)」を参照してください。

問題レポート

問題レポートには、顧客の観点から報告された品質問題に関する簡単な説明が含まれます。顧客、フィールド・サービス担当者またはサプライヤは、問題レポートを処理するための適切な権限を持っている場合、問題レポートを提出できます。ワークフローを使用して調査を依頼するために問題レポートをルートする必要があります。ルート後、調査チームは問題の根本原因を調べ、品質分析者の役割が割り当てられているユーザーは、問題レポートの処理を監視します。

Agile Import または Agile SDK を使用することにより、各種 CRM システムから問題レポートをインポートできます。

不具合レポート

不具合レポート (NCR) は、顧客、フィールド・サービス担当者、サプライヤから提出され、1つまたは複数の製品に対するマテリアルの基本的な仕様違反や要件違反について報告します。調査を依頼するためにワークフローを使用して不具合レポートをルートすることも必要です。

ロットの調査またはテストでは NCR が使用され、品質分析者はサンプリングにより仕様違反がないかどうかを確認します。

品質変更要求

品質変更要求では、検証や是正・予防処置 (CAPA) が作成および管理されます。検証は品質要件への適合性を確認する事前対応プロセスです。CAPA は、一般的な品質問題を解決し、根本原因の分析を行って是正・予防処置を実施するための正式なプロセスです。

QCR を使用すると、問題が発生した場合にルーティング可能な品質記録に集約して根本原因不良分析を実行し、標準の CAPA (是正・予防処置) の手順を使用して問題を解決できます。CAPA を実行した結果、製品、プロセス、またはサプライヤが変更されることがあります。

QCR を使用すると、次の操作を実行できます。

1. 製品、ドキュメント、サプライヤ、および顧客に関する問題を集約する品質記録を作成して管理する。
2. 変更 (ECO、MCO、ECR、出荷停止、期限付き変更指示など) を作成し、品質関連の変更を行う。
3. 変更要求をルートして確認と承認を依頼する。これにより、作成者 (品質管理)、根本原因不良分析 (品質管理および設計)、解決 (設計)、是正・予防処置 (品質管理)、コミュニケーション (顧客およびサプライヤ)、および確認 (適合性および検証) の各部門間における連携と協力が可能になります。
4. 問題、是正・予防処置、および設計変更の間で検証を行う。これにより、企業の内部と外部を結ぶ適合性プロセスが実現します。

たとえば、サプライヤから納品されたアイテムのロットの品質をテストするときに、欠陥アイテムを特定します。是正処置を行うには、欠陥アイテムの QCR を作成してルートし、確認と承認を依頼します。変更を通してアイテムをルートすることで、欠陥が修正され、アイテムの最新リビジョンがチェックされます。

詳細は、49 ページの [「品質変更要求を使用する」](#) を参照してください。

検証

検証は品質要件への適合性を確認する事前対応プロセスです。「デフォルトの検証」ワークフローは、「是正・予防処置」ワークフローとは異なります。詳細は、57 ページの [「QCR の「ワークフロー」タブ」](#) を参照してください。

是正・予防処置

是正・予防処置 (CAPA) は、PSR の一般的な品質問題に対処します。CAPA を実行すると、問題の解決につながる 1 つまたは複数の変更が作成されます。CAPA はルーティング可能なオブジェクトであり、ワークフローによって管理されます。「是正・予防処置」ワークフローはワークフロー・ステータスによって異なります。詳細は、「QCR の「ワークフロー」タブ」を参照してください。

品質追跡

品質追跡により、組織はビジネス・プロセスを特定、計測および向上できるため、業績が向上し、顧客満足度を得ることができます。不具合レポートを監視し、CAPA を実装することで、組織は基準を満たすことができます。ここでは、このような基準を満たす品質機能の一部について説明します。

品質追跡の役割

Product Quality Management は次の役割を提供します。

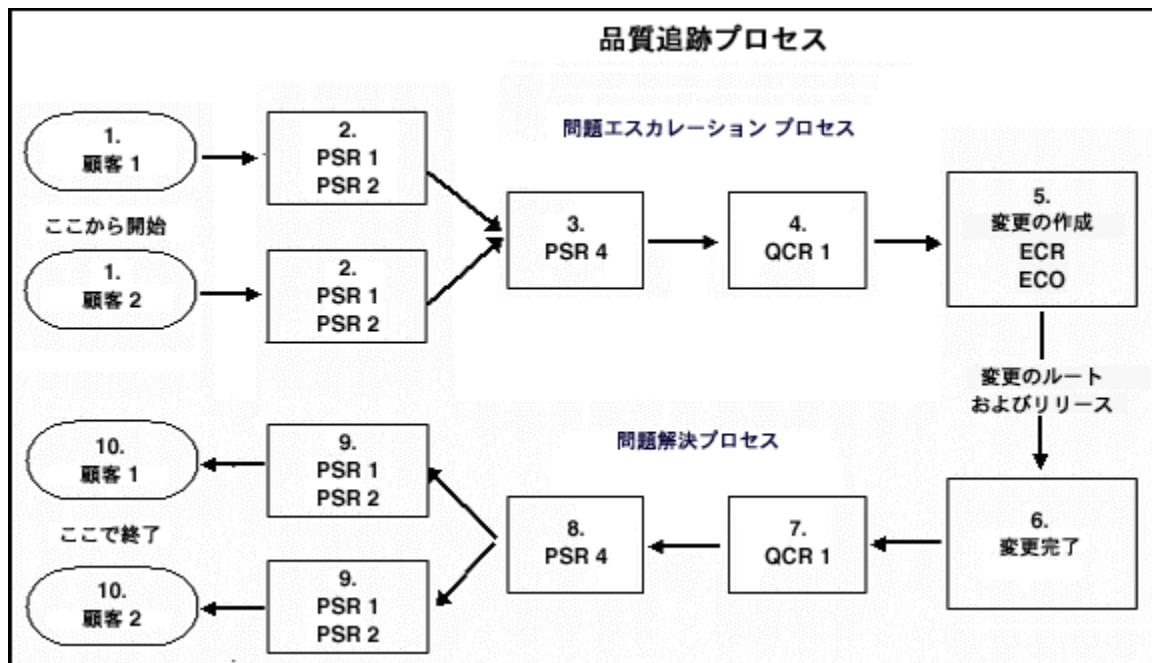
品質分析者: 品質分析者の役割がある場合、問題レポート (PR) と不具合レポート (NCR) を提出し、ソリューションを管理できます。

品質管理者: 品質管理者の役割がある場合、検証や CAPA を管理できます。

Agile PLM の役割の詳細は、『Agile Product Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

品質追跡プロセス

次の図は、品質問題プロセスの一例を示しています。この図では、各ステップに番号を付けて説明しています。



1. 2人の顧客が品質問題を報告します（顧客 1 および顧客 2）。
2. サポート部門が、報告された問題に対して PSR を作成します。

3. 顧客 1 に PSR-1、PSR-2、顧客 2 に PSR-1、PSR-2 です。
4. PSR を品質分析者に提出し、品質分析者はすべての PSR を確認します。
5. PSR はすべて、異なる顧客からのものであっても同様の問題に関連しているため、品質分析者は問題を 1 つの PSR に集約して PSR-4 を作成します。
6. 次のプロセスに移行するために、ワークフローを使用して PSR-4 をルートします。
7. 品質管理者が品質変更要求 QCR-1 を作成します。この QCR には、この変更の対象アイテムのリストが含まれます。
8. QCR をルートします。
9. エンジニアリング・チームは要求が有効かどうかを判断し、問題に応じて変更プロセス (ECO、MCO、ECR、出荷停止、期限付き変更指示など) を決定します。
10. 問題に対処するために変更を作成します。変更分析者は、ワークフローを使用して変更をルートします。
11. 変更が実施され、問題が修正されます。変更分析者は、品質管理者に通知を送ります。品質管理者は、変更が QCR で報告された問題に実際に対処しているかどうかを確認します。
12. 品質管理者は、QCR を終了する措置を取ります。

品質関連のスマートルール

スマートルールは、Agile PLMにおいて特定の動作を管理する方法を選択するための、システム全体を通じた設定です。Agile 管理者はこれらの設定を変更できます。次のスマートルールは、Product Quality Management プロセスに関連しています。

- PSR に対する多数のアイテム
- PSR に対する多数の QCR
- アイテムと関連 PSR を含む PSR
- 未処理のアイテムとともに QCR をリリースする

アイテムと関連 PSR を含む PSR スマートルールの例を取り上げます。

アイテムと関連 PSR を含む PSR スマートルールは、PSR の「対象アイテム」タブと「関連 PSR」タブの動作を管理します。スマートルールを「可」に設定した場合、PSR で「対象アイテム」と「関連 PSR」タブの両方が使用できます。設定しない場合は、「対象アイテム」と「関連 PSR」は相互に排他的です。つまり、「対象アイテム」タブにアイテムが表示されると、「関連 PSR」タブは利用できなくなります。「関連 PSR」タブが PSR を表示すると、「対象アイテム」タブは利用できなくなります。このため、PSR を他の PSR の集約に使用するか、またはアセンブリ・アイテムに対する問題レポートとして使用するかを選択できます。

これらのスマートルールについてのより詳細な説明は、『Agile Product Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

品質検索

特定の PSR または QCR を検索するには、「品質検索」フォルダの「簡易検索」または「詳細検索」から目的の検索を選択して検索を実行します。たとえば品質管理者が、未割当の PSR をすべて品質分析者に割り当てる必要がある場合、それらの PSR を簡易検索で見つけることができます。品質検索の例は次のとおりです。

- 未割当の製品サービス依頼
- オープン状態の製品サービス依頼
- X 時間以上前に提出された製品サービス依頼

- X 時間以上前に提出された品質変更要求
- リリース済の品質変更要求
- 終了した品質変更要求
- 未割当で提出済の品質変更要求
- オープン状態の品質変更要求

注意 「品質検索」フォルダが表示されるのは、管理者がプロファイルで設定しているユーザーのみです。

品質レポート

Agile PLM は、Agile PQM でデータを分析するための標準レポートを提供しています。

Agile Web クライアントのナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質レポート」の順にクリックします。品質レポートに表示されるレポートは次のとおりです。

- 6 ページの「[不具合トレンド・レポート](#)」
- 8 ページの「[品質状況レポート](#)」
- 10 ページの「[品質バックログ・レポート](#)」
- 11 ページの「[品質サイクル時間レポート](#)」
- 13 ページの「[品質メトリックス・レポート](#)」

適切な権限がある場合、前述の各レポートでは「レポート・ウィザード」が実行されます。ウィザードに従って操作します。プロセスの終了時にレポートが表示されます。レポートは、印刷したり、内容をエクスポートしたり、保存できます。実行済のレポート出力は、Web クライアントにのみ表示されます。

品質レポートには次のタブがあります。

一般情報: レポートに関する一般的な詳細が表示されます。Agile 管理者は、「一般情報」タブのフィールドを設定します。

「レイアウト」タブ: 「レイアウト」タブでは、必要に応じて、標準またはカスタマイズされたレポート・レイアウトでフィールドを追加または編集できます。レイアウトを編集するには、適切な権限が必要です。

スケジュール: 「スケジュール」タブでは、特定のスケジュールを使用して、または特定の日時にレポートを実行できます。

履歴レポート: 「履歴レポート」タブには、以前に実行されたすべてのレポートが表示されます。日付、時刻およびレポートを実行するユーザーの名前とともに保存済のレポートが表示されます。

履歴: 「履歴」タブには、レポートに対して行われる処置の要約が表示されます。

品質レポートのタブの詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

不具合トレンド・レポート

不具合トレンド・レポートには、不良モード・オーバータイムの傾向が表示されます。このレポートの結果に基づいて、製品の品質に最も大きく影響するアイテムに対する是正処置に労力を集中できます。

指定期間中に対象となった数量のレポートを作成するために、**製品サービス依頼**には「対象アイテム」の「対象となった数量」フィールドで指定された値を記載する必要があります。レポートを実行するために必要な権限を取得していることを確認してください。

不具合トレンド・レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「不具合トレンド・レポート」にナビゲートします。

2. 「実行」ボタンをクリックします。「不具合トレンド・レポートの実行」ウィザードが開きます。
3. 「レイアウトと環境設定の選択」ページで、リストから「レイアウト」を選択します。
 - a. 既存のレイアウトを変更するには、「編集」ボタンをクリックします。「デフォルトのレイアウト」ダイアログ・ボックスが開きます。目的のフィールドを変更します。
 - b. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または降順に配置することもできます。
 - c. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
4. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
5. 新しいレイアウトを作成するには、「作成」ボタンをクリックします。レイアウト表示パレットが開きます。
6. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
7. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
8. 「出力フォーマット」リストから、生成されたレポートのフォーマットを選択します。フォーマットのリスト(pdf、Word、Excel、HTML および標準)から選択します。
9. 生成されたレポートを保存するには、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスを選択します。

注意 「標準」出力フォーマットを選択した場合、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスは表示されません。

10. 「次」をクリックします。
11. 「クエリーの選択または作成」ページが表示されます。不具合トレンド・レポートでは、レポートで使用する製品サービス依頼を検索できます。
 - a. すべてのPSRから選択するには、「すべての製品サービス依頼」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 既存のPSRから選択する場合は、「保存された検索」チェック・ボックスを選択します。
 - c. 「検索」パレットをクリックし、「保存された検索」リストから値を選択します。
 - d. 「詳細検索」チェック・ボックスを選択します。
 - e. 「クエリーの定義」をクリックします。レポート検索パレットが開きます。リストから選択するか、クエリーを定義するために必要な詳細情報を入力します。
 - f. 選択内容をクリアする場合は「クリア」、続行する場合は「完了」、パレットを閉じる場合は「閉じる」をクリックします。

注意 「検索」パレットの詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

12. 「次」をクリックして次のステップに進むか、「戻る」をクリックしてクエリーを編集します。
13. 「レポートの定義」ページが表示されます。
「対象期間」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. カレンダをクリックし、「開始」の日付を選択します。
 - b. カレンダをクリックし、「終了」の日付を選択します。
 - c. リストから「時間単位」を選択します。
14. 追加のレポート条件フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「トレンド」リストから値を選択します。
 - b. 「製品サービス依頼」を表示するチェック・ボックスを選択します。
 - c. 「空のカラムを除外」チェック・ボックスを選択します。
15. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。
16. 「添付ファイルの取り出し」ダイアログ・ボックスが表示され、レポートをダウンロードするように促されます。

レポートを保存、印刷またはエクスポートするには、生成されたレポートの上部に表示されるボタンをクリックします。レポートを保存せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、レポートが失われます。

保存: レポートを「履歴レポート」タブに保存します。

印刷: 生成されたレポートを印刷します。

エクスポート: レポートの内容を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックにエクスポートします。

品質状況レポート

品質状況レポートには、一定期間中に処理された品質問題（製品サービス依頼および品質変更要求）が表示されます。

品質状況レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質状況レポート」にナビゲートします。

注意 レポートの実行方法の詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』の「レポートを使用する」を参照してください。

2. 「実行」をクリックします。「品質状況レポートの実行」ウィザードが開きます。
3. 「レイアウトと環境設定の選択」ページで、リストから「レイアウト」を選択します。
4. 既存のレイアウトを変更するには、「編集」ボタン  をクリックします。「デフォルトのレイアウト(PSR)」パレットが開きます。該当するフィールドを変更します。
5. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または降順に配置することもできます。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
6. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。

- c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
7. 新しいレイアウトを作成するには、「作成」ボタン  をクリックします。レイアウト表示パレットが表示されます。
8. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
- a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
9. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
- a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
10. 「出力フォーマット」リストから、生成されたレポートのフォーマットを選択します。フォーマットのリスト (pdf、Word、Excel、HTML および標準) から選択します。
11. 生成されたレポートを保存するには、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスを選択します。

注意 「標準」出力フォーマットを選択した場合、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスは表示されません。

12. 「次」をクリックします。
13. 「期間の選択」ページが表示されます。
- a. カレンダをクリックし、「開始」の日付を選択します。
 - b. 対象期間を表示するには、カレンダをクリックし、「終了」の日付を選択します。
14. 「次」をクリックします。
15. 「追加のパラメータを選択」ページが表示されます。ワークフローとステータスの変更条件フレームで、次の手順を実行します。
- a. 「ワークフロー・タイプ」リストからワークフローを選択します。
 - b. 「検索」パレット  をクリックして、「変更後のステータス」フィールドに変更内容を反映します。「変更」パレットが表示されます。アイテムを選択してダブルクリックし、「変更後のステータス」フィールドに移動します。
 - c. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。
- 「添付ファイルの取り出し」ダイアログ・ボックスが表示され、レポートをダウンロードするように促されます。
16. レポートを保存、印刷またはエクスポートするには、生成されたレポートの上部に表示されるボタンをクリックします。レポートを保存せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、レポートが失われます。

保存: レポートを「履歴レポート」タブに保存します。

印刷: 生成されたレポートを印刷します。

エクスポート: レポートの内容を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックにエクスポートします。

品質バックログ・レポート

品質バックログ・レポートには、一定期間中に次のステータスの移行が行われなかつた、特定のステータスの問題が表示されます。

品質バックログ・レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質バックログ・レポート」に移動します。
2. 「実行」ボタンをクリックします。「品質バックログ・レポート」ウィザードが開きます。
3. 「レイアウトと環境設定の選択」ページで、リストから「レイアウト」を選択します。
 - a. 既存のレイアウトを変更するには、「編集」ボタンをクリックします。「デフォルトのレイアウト」パレットが開きます。該当するフィールドを変更します。
 - b. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - c. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
4. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
5. 新しいレイアウトを作成するには、「作成」ボタンをクリックします。レイアウト表示パレットが開きます。
6. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
7. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
8. 「出力フォーマット」リストから、生成されたレポートのフォーマットを選択します。フォーマットのリスト (pdf、Word、Excel、HTML および標準) から選択します。
9. 生成されたレポートを保存するには、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスを選択します。

注意 「標準」出力フォーマットを選択した場合、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスは表示されません。

10. 「次」をクリックします。
11. 「クエリーの選択または作成」フレームが表示されます。品質バックログ・レポートでは、レポートで使用する**製品サービス依頼**を検索できます。
 - a. すべてのPSRから選択するには、「すべての製品サービス依頼」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 「保存された検索」チェック・ボックスを選択します。
 - c. 「検索」パレット をクリックし、「保存された検索」リストから値を選択します。
 - d. 「詳細検索」チェック・ボックスを選択します。
12. 「クエリーの定義」をクリックします。レポート検索パレットが開きます。
 - a. リストから選択するか、クエリーを定義するために必要な詳細情報を入力します。
 - b. 選択内容をクリアする場合は「クリア」、続行する場合は「完了」、パレットを閉じる場合は「閉じる」をクリックします。
13. 「次」をクリックして次のステップに進むか、「戻る」をクリックしてクエリーを変更します。「レポートの定義」フレームが表示されます。
14. 「対象期間」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. カレンダを使用して「開始」の日付を選択します。
 - b. カレンダを使用して「終了」の日付を選択します。
 - c. リストから「時間単位」を選択します。
15. 「ステータスの変更」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「ワークフロー」リストからワークフローを選択します。
 - b. 「開始ステータス」を選択します。
 - c. 「変更後のステータス」を選択します。
16. 追加のレポート条件フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「トレンド」リストから値を選択します。
 - b. 「製品サービス依頼」を表示するチェック・ボックスを選択します。
 - c. 「空のカラムを除外」チェック・ボックスを選択します。
17. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。
18. 「添付ファイルの取り出し」ダイアログ・ボックスが表示され、レポートをダウンロードするように促されます。

レポートを保存、印刷またはエクスポートするには、生成されたレポートの上部に表示されるボタンをクリックします。レポートを保存せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、レポートが失われます。

保存: レポートを「履歴レポート」タブに保存します。

印刷: 生成されたレポートを印刷します。

エクスポート: レポートの内容を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックにエクスポートします。

品質サイクル時間レポート

品質サイクル時間レポートは、指定した製品サービス依頼と品質変更要求 (PSR と QCR) が、指定した期間内に別のステータスに移行する際に要する時間を計算します。

このレポートは、依頼と、それぞれの PSR または QCR が 2 つのステータス間の推移に要する平均時間を期間ごとに表示します。たとえば、PSR や QCR がこの 1 年間に「提出済」から「リリース済」に移行する際に要した平均時間が、月ごとに製品ライン別にまとめて表示されます。

品質サイクル時間レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質サイクル時間レポート」に移動します。
 2. 「実行」をクリックします。「品質サイクル時間レポート」ウィザードが表示されます。
 3. 「レイアウトと環境設定の選択」ページで、リストから「レイアウト」を選択します。
 4. 既存のレイアウトを変更するには、「編集」ボタンをクリックします。「デフォルトのレイアウト」ダイアログ・ボックスが開きます。目的のフィールドを変更します。
「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
 5. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
 6. または、「作成」ボタンをクリックして新しいレイアウトを作成します。レイアウト表示パレットが開きます。
 7. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 非表示のプロパティ列からプロパティを選択し、右矢印を使用して表示プロパティ列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックします。
 8. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存し、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
 9. 「出力フォーマット」リストから、生成されたレポートのフォーマットを選択します。フォーマットのリスト(pdf、Word、Excel、HTML および標準)から選択します。
 10. 生成されたレポートを保存するには、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスを選択します。
- 注意** 「標準」出力フォーマットを選択した場合、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスは表示されません。
11. 「次」をクリックします。
 12. 「クエリーの選択または作成」ページが表示されます。品質サイクル時間レポートでは、レポートで使用する製品サービス依頼を検索できます。

- a. すべてのPSRから選択するには、「すべての製品サービス依頼」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 「保存された検索」チェック・ボックスを選択します。
 - c. 「検索」パレット  をクリックし、「保存された検索」リストから値を選択します。
 - d. 「詳細検索」チェック・ボックスを選択します。
13. 「クエリーの定義」をクリックします。レポート検索パレットが開きます。
- a. リストから選択するか、クエリーを定義するために必要な詳細情報を入力します。
 - b. 選択内容をクリアする場合は「クリア」、続行する場合は「完了」、パレットを閉じる場合は「閉じる」をクリックします。
14. 「次」をクリックして次のステップに進むか、「戻る」をクリックしてクエリーを変更します。「クエリーの選択または作成」ページが表示されます。
15. 「対象期間」フレームで、次の手順を実行します。
- a. カレンダを使用して「開始」の日付を選択します。
 - b. カレンダを使用して「終了」の日付を選択します。
 - c. リストから「時間単位」を選択します。
16. 「ステータスの変更」フレームで、次の手順を実行します。
- a. 「ワークフロー」リストからワークフローを選択します。
 - b. 「開始ステータス」を選択します。
 - c. 「変更後のステータス」を選択します。
17. 追加のレポート条件フレームで、次の手順を実行します。
- a. 「トレンド」リストから値を選択します。
 - b. 「製品サービス依頼」を表示するチェック・ボックスを選択します。
 - c. 「空のカラムを除外」チェック・ボックスを選択します。
18. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。
19. 「添付ファイルの取り出し」ダイアログ・ボックスが表示され、レポートをダウンロードするように促されます。

レポートを保存、印刷またはエクスポートするには、生成されたレポートの上部に表示されるボタンをクリックします。レポートを保存せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、レポートが失われます。

保存: レポートを「履歴レポート」タブに保存します。

印刷: 生成されたレポートを印刷します。

エクスポート: レポートの内容を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックにエクスポートします。

品質メトリックス・レポート

品質メトリックス・レポートには、指定された期間中に特定のステータスに移動した品質問題（製品サービス依頼および品質変更要求）が表示されます。

品質メトリックス・レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質メトリックス・レポート」に移動します。
2. 「実行」をクリックします。「品質メトリックス・レポート」ウィザードが表示されます。
3. 「レイアウトと環境設定の選択」ページで、リストから「レイアウト」を選択します。
4. 既存のレイアウトを変更するには、「編集」ボタン  をクリックします。「デフォルトのレイアウト」ダイアログ・ボックスが開きます。目的のフィールドを変更します。
 - a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。

- b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
5. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
6. または、「作成」ボタン  をクリックして新しいレイアウトを作成します。レイアウト表示パレットが開きます。
7. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 非表示のプロパティ列からプロパティを選択し、右矢印を使用して表示プロパティ列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存し、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
8. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存し、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
9. 「出力フォーマット」リストから、生成されたレポートのフォーマットを選択します。フォーマットのリスト (pdf、Word、Excel、HTML および標準) から選択します。
10. 生成されたレポートを保存するには、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスを選択します。

注意 「標準」出力フォーマットを選択した場合、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスは表示されません。

11. 「次」をクリックします。「クエリーの選択または作成」ページが表示されます。品質メトリックス・レポートでは、レポートで使用する製品サービス依頼を検索できます。
 - すべての PSR から選択するには、「すべての製品サービス依頼」チェック・ボックスを選択します。
 - 「保存された検索」チェック・ボックスを選択します。
 - 「検索」パレット  をクリックし、「保存された検索」のリストから値を選択します。
 - 「詳細検索」チェック・ボックスを選択します。
12. 「クエリーの定義」をクリックします。レポート検索パレットが開きます。
 - a. リストから選択するか、クエリーを定義するために必要な詳細情報を入力します。
 - b. 選択内容をクリアする場合は「クリア」、続行する場合は「完了」、パレットを閉じる場合は「閉じる」をクリックします。

13. 「次」をクリックして次のステップに進むか、「戻る」をクリックしてクエリーを編集します。「レポートの定義」ページが表示されます。
14. 「対象期間」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. カレンダを使用して「開始」の日付を選択します。
 - b. カレンダを使用して「終了」の日付を選択します。
 - c. リストから「時間単位」を選択します。
15. 「ステータスの変更」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「ワークフロー」リストからワークフローを選択します。
 - b. 「ステータス・タイプ」からステータスを選択します。
16. 追加のレポート条件フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「トレンド」リストから値を選択します。
 - b. 「製品サービス依頼」を表示するチェック・ボックスを選択します。
 - c. 「空のカラムを除外」チェック・ボックスを選択します。
17. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。
18. 「添付ファイルの取り出し」ダイアログ・ボックスが表示され、レポートをダウンロードするように促されます。

レポートを保存、印刷またはエクスポートするには、生成されたレポートの上部に表示されるボタンをクリックします。レポートを保存せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、レポートが失われます。

保存: レポートを「履歴レポート」タブに保存します。

印刷: 生成されたレポートを印刷します。

エクスポート: レポートの内容を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックにエクスポートします。

品質追跡に利用できるタブ

特定のタブやフィールドの品質情報を、アイテム、顧客、サプライヤなどのオブジェクトに関する情報とリンクできます。その後、組織は設計の際に特定の部品を組み込むことの品質リスクを評価できます。

- アイテムの「品質」タブでは、このアイテムに対して報告されたすべての PSR が表示されます。
- 顧客オブジェクトの「製品サービス依頼(PSR)」タブには、顧客から報告されたすべての品質問題が表示されます。ここで顧客満足度を評価できます。
- サプライヤ・オブジェクトの「製品サービス依頼(PSR)」タブには、サプライヤに対して提出されたすべての品質問題が表示されます。これは、サプライヤから購入する際の品質実績の評価に影響を及ぼし、そのサプライヤの格付けと優先順位を確定する上での基準になります。

顧客およびサプライヤに対する品質問題の表示

顧客またはサプライヤに対して品質問題を表示する様々な方法を次に示します。

- **簡易検索の実行:** ホーム・ページで PSR、QCR、顧客およびサプライヤを検索する最も速い方法です。
- **カスタム検索:** 様々なクエリーを組み合せることで、条件に一致する PSR が戻されます。たとえば、「製品サービス依頼: 顧客が Null ではない、またはサプライヤが Null ではない」のように指定します。
- **詳細検索:** 複数の条件を設定し、オブジェクトをフィルタリングすることでオブジェクトを検索する最も効率的な方法です。たとえば、「顧客/サプライヤの PSR を持ち、QCR が開始されているアイテム」、「顧客/サプライヤの PSR のみを持ち、QCR が開始されていないアイテム」、「PSR と QCR を持ち、変更が関連付けられているアイテム」のように指定します。

- **部品の表示:** 部品の「品質」タブには、顧客とサプライヤの詳細とともに PSR 番号および QCR 番号が表示されます。
- **検索のパーソナライズ:** 検索をフォーマットし、「パーソナライズ」メニューを使用して目的の表示を選択します。たとえば、表示フィールドに顧客とサプライヤのすべての QCR/PSR を表示します。

製品サービス依頼 (PSR) を使用する

この章のトピック

- 17 ページの「[製品サービス依頼の作成](#)」
- 21 ページの「[PSR の「カバー・ページ」タブ](#)」
- 25 ページの「[PSR の「対象アイテム」タブ](#)」
- 30 ページの「[「関連PSR」タブ](#)」
- 34 ページの「[「関係」タブ](#)」
- 45 ページの「[PSR の「ワークフロー」タブ](#)」
- 46 ページの「[PSR の「添付ファイル」タブ](#)」
- 46 ページの「[PSR を提出、ルートする](#)」

PSRを作成する

製品サービス依頼 (PSR) の作成は、問題の品質によって異なります。PSR では、1 つの品質問題、または1 つの PSR を持つ複数の問題を報告できます。PSR を作成するには、必要な役割と権限を持っている必要があります。役割と権限の詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

注意 質分析者の役割がある場合、PSR について必要なすべての処置を作成、編集、削除および実行できます。

製品サービス依頼の作成

「ホーム」ページの「新規作成」機能により、PSR を作成できます。

Java クライアントで PSR を作成するには

1. Agile Java クライアントを起動します。
2. メイン・ツールバーで、「ファイル」>「新規」>「製品サービス依頼」>「問題レポート」の順にクリックします。
3. 表示される「新規」ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します。
 - a. 「タイプ」リストから目的のサブクラス (NCR または問題レポート) を選択します。
 - b. 「番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
 - c. リストから「品質分析者」を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

Agile Java クライアントが PSR を作成し、PSR が編集モードで「カバー・ページ」とともに表示されます。

カバー・ページの詳細は、「PSR の「カバー・ページ」タブ」を参照してください。

Agile Web クライアントで PSR を作成するには

1. Agile Web クライアントを起動します。
2. メイン・ツールバーで、「新規作成」メニューをクリックします。
3. ドロップダウン・メニューから「製品サービス依頼」>「問題レポート」または「不具合レポート」の順に選択します。「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 「タイプ」リストから目的のサブクラス（NCR または問題レポート）を選択します。
5. 「PSR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
6. 「保存」をクリックします。

Agile Web クライアントが **PSR** を作成し、PSR が編集モードで「カバー・ページ」とともに表示されます。

PSR にワークフローを割り当てていない場合は、「未割当」ステータスが表示されます。

PSRにワークフローを割り当てるには

1. **PSR** を開き、「編集」ボタンをクリックします。
2. 「ワークフロー」リストからワークフローを選択します。詳細は、「PSR の「ワークフロー」タブ」を参照してください。
3. 「保存」をクリックします。

保存された **PSR** のステータスがページの右隅に表示されます。たとえば、割り当てられるステータスは「保留中」、「提出済」、「レビュー」または「リリース済」です。

アイテムからのPSRの作成

適切な権限を持っている場合、アイテムから **PSR** を作成できます。

JavaクライアントでアイテムからPSRを作成するには

1. **PSR** を作成するアイテムを開きます。
2. 「アクション」メニューから「新規 PSR の作成」を選択します。
3. 「新規」ダイアログで、次の手順を実行します。
 - a. 「タイプ」リストから目的のサブクラス（NCR または問題レポート）を選択します。
 - b. 「PSR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
 - c. リストから「品質分析者」を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。

Agile Java クライアントが **PSR** を作成し、PSR が編集モードで「カバー・ページ」タブを最前面にして表示されます。

4. 「カバー・ページ」タブの関連するフィールドに値を入力します。
5. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

新規 **PSR** の「対象アイテム」タブにアイテムが表示されます。

WebクライアントでアイテムからPSRを作成するには

1. **PSR** を作成するアイテムを開きます。
2. 「アイテム」ページで、「アクション」>「新規作成」>「製品サービス依頼」の順に選択します。「新規作成」ページが表示されます。
3. 「タイプ」リストから目的のサブクラス（NCR または問題レポート）を選択します。
4. 「PSR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
5. **PSR** が編集モードで開きます。「保存」をクリックして変更内容を保存します。
6. **PSR** に「カバー・ページ」が表示されます。**PSR** の「対象アイテム」テーブルにアイテムが表示されます。

Agile Web クライアントが **PSR** を作成し、PSR が「カバー・ページ」タブを最前面にして表示されます。新規 **PSR** の「対象アイテム」タブにアイテムが表示されます。

他の複数のPSRを集約するPSRの作成

たとえば、ある会社の品質分析者であると想定します。分析者は、サプライヤから納品された出荷の中に、マテリアルの含有基準に適合していないものがあることに気付きました。この場合、これらの問題を追跡して集約し、単一の **PSR** を作成できます。

作成する単一の **PSR** は、親 **PSR** になります。「**関連 PSR**」タブに追加されたすべての **PSR** は、子 **PSR** になります。

注意 「アイテムと関連 PSR を含む PSR」スマートルール設定を有効にするか無効にするかによって、「**関連 PSR**」を追加した後に「**対象アイテム**」を有効または無効にできます。

Javaクライアントで複数のPSRを集約するPSRを作成するには

- 新しい**PSR**の基本となる**PSR**を開くか、「ファイル」>「名前を付けて保存」の順に選択するか、または右クリックして「名前を付けて保存」を選択します。20ページの「[\[名前を付けて保存\]を使用したPSRの作成](#)」を参照してください。
- PSR**が編集モードで「カバー・ページ」とともに開きます。「**対象アイテム**」タブでは、アイテムを追加しないでください。「**関連 PSR**」タブで、関連 **PSR**を追加します。
- 「**追加**」をクリックして関連 **PSR**を追加します。

この親 **PSR**に関連 **PSR**を追加した後、「**関連 PSR**」タブの各子 **PSR**の「集約 PSR 番号」列には、親 **PSR**の番号が表示されます。

Webクライアントで複数のPSRを集約するPSRを作成するには

- 新規 **PSR**の基本となる**PSR**を開くか、または「アクション」>「名前を付けて保存」の順に選択します。「名前を付けて保存」ページが表示されます。
- PSR**が編集モードで「カバー・ページ」とともに開きます。「**対象アイテム**」タブでは、アイテムを追加しないでください。「**関連 PSR**」タブで、関連 **PSR**を追加します。
- 「**追加**」をクリックして関連 **PSR**を追加します。**[Ctrl]+[I]**キーを使用して、検索フィールドを呼び出すこともできます。

a. 値を入力し、「**検索して追加**」ボタン  をクリックして検索パレットを起動します。

b. 新しい **PSR**を作成するには、「**作成して追加**」ボタン  をクリックします。

この親 **PSR**に関連 **PSR**を追加した後、「**関連 PSR**」タブの各 **PSR**の「集約 PSR 番号」列には、親 **PSR**の番号が表示されます。子 **PSR**の「カバー・ページ」では、「集約 PSR 番号」フィールドにこの親 **PSR**の番号が自動的に表示されます。

フィールド	設定方法	内容
PSR イベント	手動	自動ワークフロー・イベントのきっかけとなる親 PSR のステータス。リストから利用可能なステータスを選択します。 PSR にワークフローが割り当てられている場合、ステータスを指定できます。このイベントの発生は、 PSR が指定のステータスに達したことを意味します。 注意: 「カバー・ページ」で親と子の両方のオブジェクトにワークフローを割り当てる場合のみ、「 PSR イベント 」のステータスを指定できます。
PSR 結果	手動	「 イベント 」ステータスに達したときに、関連 PSR が昇格されるステータス。親 PSR が「 PSR イベント 」フィールドで指定されたステータスに達すると、関連 PSR のステータスは、このフィールドで指定した結果ステータスに移行します。 注意: 「カバー・ページ」で親と子の両方のオブジェクトにワークフローを

		割り当てる場合のみ、「PSR イベント」のステータスを指定できます。
--	--	------------------------------------

「名前を付けて保存」を使用したPSRの作成

「名前を付けて保存」機能を使用すると、既存の PSR に類似した PSR を簡単に作成できます。「名前を付けて保存」機能は、既存の PSR のフィールドから新しい PSR の同じフィールドにデータをコピーします。新しい PSR で既存の PSR のフィールドまたはリストを使用できない場合、フィールドまたはデータは新しい PSR にコピーされません。

Javaクライアントで「名前を付けて保存」を使用してPSRを作成するには

- 新規 PSR の基本となる PSR を開きます。
- 「ファイル」>「名前を付けて保存」の順に選択するか、または右クリックして「名前を付けて保存」を選択します。「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 「タイプ」リストから目的のサブクラス（NCR または問題レポート）を選択します。
 - 「PSR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン をクリックして新しい番号を生成します。
 - 「OK」をクリックします。
- Agile Java クライアントが PSR を作成し、PSR が編集モードで「カバー・ページ」とともに表示されます。
- 「カバー・ページ」タブの関連するフィールドに値を入力します。
- 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

Webクライアントで「名前を付けて保存」を使用してPSRを作成するには

- 新規 PSR の基本となる PSR を開きます。
- 「アクション」>「名前を付けて保存」の順に選択します。「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 「タイプ」リストから目的のサブクラス（NCR または問題レポート）を選択します。
- 「PSR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン 123 をクリックして新しい番号を生成します。
- 元の PSR に添付ファイルが含まれる場合、フレームには次のオプションが表示されます。
 - 既存ファイルを参照: 新しい PSR の「添付ファイル」タブに表示される既存のファイル・フォルダへの新しい参照を作成します。
 - ファイルの新規コピーを作成: 添付ファイルの新しいコピーを作成し、新たに作成されたファイル・フォルダに配置します。
 - ファイルを含めない: 添付ファイルのない新しい PSR を作成します。
- 「保存」をクリックします。PSR が編集モードで「カバー・ページ」とともに開きます。
- 「カバー・ページ」タブの関連するフィールドに値を入力します。
- 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

注意 一般に、クラスやサブクラスが元のオブジェクトと異なるオブジェクトを作成する場合は、「名前を付けて保存」機能は使用しないでください。クラスやサブクラスが違うと、タブや定義されるフィールドが異なる場合があり、新しく作成したオブジェクトの一部のデータにアクセスできなくなることがあります。

旧オブジェクトからコピーされるフィールド	事前に入力されるフィールド
「カテゴリ」、「PSR タイプ」、「問題の説明」、「重大度」、「製品ライン」	作成者
「ページ2」および「ページ3」のユーザー設定フィールド	作成日
すべてのアイテム情報を「対象アイテム」タブよりコピー	「ステータス」フィールドは、デフォルトで「未割当」に設定される
すべての添付ファイルを「添付ファイル」タブよりコピー	
「履歴」タブはソース・オブジェクトとターゲット・オブジェクトを反映	

Agile PLM 管理者によって適切なプリファレンスが設定されている場合、新しい PSR では、オプションの「ページ2」と「ページ3」セクションのフィールドがコピーされます。「ページ3」のデータは特定のサブクラスにのみ適用されるため、「名前を付けて保存」を使用してサブクラスの異なる新規オブジェクトを作成した場合、「ページ3」のデータは新規オブジェクトにコピーされません。使用中の Agile PLM システムにおける「ページ2」と「ページ3」フィールドの動作については、『Agile Product Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

作成したPSRは、ユーザーが削除するまでシステムに残ります。PSRを削除しても、Agileデータベースからは削除されません。PSRを完全に削除するには、ハード削除が必要があります。PSRおよびQCRの削除の詳細は、69 ページの「[Agileオブジェクトの削除](#)」を参照してください。

PSRまたはQCRの検索

Agile PLM では、**簡易検索**、**カスタム検索**および**詳細検索**によってオブジェクトを検索できます。

- 「**簡易検索の実行**」ボタンをクリックすると、最も速い方法でオブジェクトを検索できます。
- 「**カスタム検索**」([Ctrl]+[Shift]+[Q]) ボタンをクリックすると、検索条件をカスタマイズしてオブジェクトを検索できます。「検索結果」には、条件に一致するオブジェクトが表示されます。
- 「**詳細検索**」ボタンをクリックすると、複数の検索条件を指定して特定のオブジェクトを検索できます。

簡易検索を実行するには

1. オブジェクトを選択し、ワイルドカード (*) を入力します。
 2. 「**簡易検索の実行**」ボタンをクリックします。
- 「検索結果」で、オブジェクトのリストが返されます。

注意 必要に応じて、「詳細検索に変換」オプションを選択します。

詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』の「検索」を参照してください。

PSRの「カバー・ページ」タブ

次の表では、PSR の「カバー・ページ」タブのフィールドについて説明し、製品サービス依頼の各タブの使用について説明します。

フィールド	設定方法	内容
PSR 番号	作成時に自動入力 注意: 「管理」設定で、「自動生成」が「はい」に設定されている場合、番号は自動的に生成されます。それ以外の	PSR の作成時に割り当てられる番号。 問題レポートのときは、番号の前に「PR」が付きます。 不具合レポートのときは、番号の前に「NCR」が付きます。

	場合は、PSR 番号を入力する必要があります。	
PSR タイプ	作成時に自動入力	PSR の作成時に選択したタイプ（サブクラス）。
カテゴリ	手動	Agile PLM 管理者によって定義されたカテゴリのリスト。例: 顧客の苦情 検証 - 社外 予防策
説明	通常は手動入力（デフォルトの使用が可能）	Agile PLM 管理者が最大バイト数を設定します。スペースと改行（2バイト）を含め 4,000 バイトまで入力できます。
顧客	手動	この PSR に関する顧客のリスト。
サプライヤ	手動	問題が発生したサプライヤのリスト、または問題の原因。
重大度	手動	Agile PLM 管理者によって定義された重大度のリスト。
対応策	手動	Agile PLM 管理者によって定義された対応策のリスト。 「対応策」フィールドは、PSR の解決方法を示すコードを表示します。 対応策の例には、「コンポーネントの置換」、「仕様へのリワーク」などがあります。
予定解決日	手動	PSR が解決される日付。
品質分析者	ワークフローにより自動入力されます。またはリストから手動で選択することもできます。リストには最初に部署、次に個々のユーザー名が表示されます。	デフォルトの品質分析者。 デフォルトの品質分析者に通知するようにワークフローが定義されている場合、このフィールドの部署またはユーザーは PSR に関する通知を受信します。このフィールドを空白にすると、リストのすべての品質分析者に通知が送信されます。 ワークフローが「保留中」ステータスで、品質分析者が定義されている場合、そのユーザーが通知を受信します。 ワークフローの通知定義が空白の場合、通知は送信されません。
ワークフロー	PSR に複数のワークフローが適用されている場合は、手動でワークフローを選択します。ワークフローは、PSR が「保留中」ステータスであるかぎり、いつでも変更できます。ワークフローを選択すると、PSR は「未割当」のステータスに切り替わります。	品質追跡プロセスに従ってこの PSR を処理するために使用されるワークフローの名前。

	ワークフローを割り当てずに、PSR を「未割当」ステータスから次のステータスに移動することはできません。	
ステータス	作成時に自動入力	PSR の現在のワークフロー・ステータス。ワークフローが選択されていない場合、ステータスは「未割当」のままでです。
作成者	作成時に自動入力	デフォルトの PSR 作成者。その他の問題レポート作成者のリストも含まれます。
作成日	通常は作成時に自動入力	PSR を作成した日付。
提出日	ワークフロー・ステータスに基づいて自動生成	PSR がワークフローで「提出済」ステータスに移行した日付。
リリース日	ワークフロー・ステータスに基づいて自動生成	PSR がワークフローで「リリース済」ステータスに移行した日付。
最終完了日	ワークフロー・ステータスに基づいて自動生成	PSR がワークフローで「完了」ステータスに移行した日付。
集約 PSR 番号	PSR が「関連 PSR」タブに追加されるときに自動入力	親 PSR 番号が自動的に入力されます。
製品ライン	手動	この PSR が影響する製品ライン。

PSRのカバー・ページの更新

PSR を作成した後、PSR の作成時に含めなかった追加情報を指定して PSR を変更したり、PSR の作成後に変更された情報を編集できます。「カバー・ページ」でフィールドを複数回変更できます。「PSR タイプ」のように、「カバー・ページ」の一部のフィールドは自動的に入力されます。

JavaクライアントでPSRの「カバー・ページ」を編集するには

1. PSR を開きます。「PSR 番号」と「PSR タイプ」フィールドは事前に入力されています。
2. 「カテゴリ」フィールドでリストから値を選択します。
3. 「説明」フィールドにテキストを入力します。
4. 顧客を検索するには、リンクをクリックします。
5. 「オブジェクトの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。「*」を入力し、「検索」ボタンをクリックします。
6. 「検索結果」リストからオブジェクトを選択し、矢印を使用して「選択したオブジェクト」列に移動します。
7. 「OK」をクリックします。

または

- 「保存された検索」タブをクリックし、使用可能なフォルダを検索します。
- 「ショートカット」タブをクリックし、「最近訪れたところ」フォルダと「ブックマーク」フォルダを検索します。
- 「詳細検索」リンクをクリックします。
 - a. 「詳細検索」ダイアログ・ボックスで、「新規作成」または「保存した検索を使用」オプションを選択します。

- b. 必要に応じて、リストから選択するか、またはテキストを入力します。
- c. 検索を実行する場合は「実行」、変更内容を保存する場合は「保存」、条件を追加する場合は「詳細」、ダイアログ・ボックスを閉じる場合は「閉じる」をクリックします。
- d. 「OK」をクリックして変更内容を保存するか、「キャンセル」をクリックして「カバー・ページ」に戻ります。
- 8. リストから PSR の「重大度」を選択します。
- 9. リストから「対応策」を選択します。

- 10. カレンダー  を使用して、「予定解決日」を選択します。
- 11. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

「カバー・ページ」に変更された値が表示されます。

WebクライアントでPSRの「カバー・ページ」を編集するには

1. PSRを開き、「編集」ボタンをクリックしてPSRを変更します。
2. 「PSR番号」とPSRタイプ番号フィールドは自動的に入力されます。
3. 「カテゴリ」フィールドでリストから値を選択します。
4. 「説明」フィールドにテキストを入力します。
5. 顧客とサプライヤを検索するには、次の操作を行います。

- 「顧客」/「サプライヤ」フィールドの下の  ボタンをクリックし、検索パレットを起動して既存の顧客またはサプライヤを検索します。
-  ボタンをクリックして、新しい顧客またはサプライヤを作成します。
「検索」パレットでは、データベースのデータをフィルタリング、検索または参照できます。

既存の顧客またはサプライヤを検索するには

- 「顧客」/「サプライヤ」フィールドの下の  ボタンをクリックし、検索パレットを起動して既存の顧客またはサプライヤを検索します。[Ctrl]+[L]キーを使用して、検索フィールドを呼び出すこともできます。
- 既知の値を入力するか、「*」を入力して、「簡易検索の実行」ボタン  をクリックします。
- 表示されるリストから「顧客」または「サプライヤ」を選択します。顧客またはサプライヤを「カバー・ページ」フィールドに移動するには、次のいずれかの操作を行います。
 - オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。
 - オブジェクトをダブルクリックします。
 - [Enter]を押します。
- a. 「閉じる」ボタン  をクリックしてパレットを閉じます。

新しい顧客を作成するには

- b.  ボタンをクリックして、新しい顧客またはサプライヤを作成します。
- c. 「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。「タイプ」フィールドで、リストから「顧客」を選択します。
- d. 「番号」フィールドで番号を入力するか、「自動採番」ボタン  をクリックします。
- e. 「顧客名」を入力します。
- f. 「保存」をクリックします。

6. リストから **PSR** の「重大度」を選択します。
 7. リストから「対応策」を選択します。
 8. カレンダー  をクリックし、解決日を選択します。[Ctrl]+[L]キーを使用して、カレンダーを呼び出すこともできます。
 9. リストから「ワークフロー」を選択します。**PSR** が次のステータスに移行すると、ワークフロー・ステータスが自動的に更新されます。
 10. 「作成者」および「品質分析者」フィールドは事前に定義されています。
 11.  パレットをクリックし、この **PSR** が影響する1つ以上の「製品ライン」を選択します。[Ctrl]+[L]キーを使用することもできます。
 12. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。
- 「カバー・ページ」に変更された値が表示されます。

PSRの「対象アイテム」タブ

PSR の「対象アイテム」タブには、現在の **PSR** の影響を受けるアイテムのリストが表示されます。単一の **PSR** によって複数のアイテム（部品やドキュメント）に影響を与えることができます。「関係」タブに PSR を追加すると、「PSR アイテム」テーブルも表示されます。

注意 **PSR** がワークフローの「リリース済」ステータスではない場合のみ、対象となるアイテムを追加できます。

解決の必要なその他のアイテム（部品、ドキュメント、アセンブリなど）を「対象アイテム」タブに追加できます。QCR にも同じことが当てはまります。新たに作成された **PSR** を、作成後に変更された情報で変更できます。

NCR の「対象アイテム」タブに表示されるいくつかのフィールドは、PR とは異なります。次の表に、**NCR** のその他のフィールドを示します。これらのフィールドは、製品の期限付き変更指示に関する追加情報を提供します。

「対象アイテム」テーブルでは、次のフィールドがデフォルトで表示および記述されています。

フィールド	設定方法	内容
アイテム番号	作成時に自動入力	対象アイテムの番号。
アイテムの説明	作成時に自動入力	アイテムの説明。
見つかった リビジョン	手動	対象アイテムの問題が見つかった対象アイテムのリビジョン。たとえば、アイテムが5回改訂され、リビジョンBで欠陥が特定された場合、「見つかったリビジョン」には、「B」が表示されます。 Web クライアントでは、追加するアイテムを選択すると、このアイテムのすべてのリビジョンがドロップダウン・リストに表示されます。デフォルトでは最新のリリース済リビジョンが表示されます。 注意: アイテムの複数のコピーを同一リビジョンで「対象アイテム」タブに追加できます。
対象拠点	作成時に自動入力	対象アイテムに問題がある拠点。

不良モード	手動	製品が故障した理由、または顧客の要件を満たさなかった理由を表示します。不良モードは、Agile管理者によって定義されたリストから選択します。アイテムのサブクラスごとに不良モードのリストを定義できます。 たとえば、バッテリの不良モードには「充電切れ」、電源コードの不良モードとしては「ヒューズが飛んだ」などを定義します。
対象となった数量	手動	品質問題の対象となったアイテムの数。
修正リビジョン	自動。リビジョンの問題を解決したとき。手動で変更することもできます。	問題が修正されたアイテムのリビジョン。このフィールドは、ユーザーが手動で更新するか、ECO のリリース時に自動的に入力されます。

注意 「アイテム番号」フィールドは、「パーソナライズ」メニューで選択した並替え順序に応じて、テーブルの昇順  または降順  を示します。

注意 「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義することでいくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

NCRの「対象アイテム」タブの属性

NCRの属性と操作は、「対象アイテム」タブの一部のフィールドを除いて、問題レポートと同じです。これらのフィールドは、1つ、または複数製品の期限付き変更指示に関する追加情報を提供します。

次の表では、品質保証部門がサプライヤから出荷されたマテリアルを検査するプロセスのフィールドについて説明します。

フィールド	設定方法	内容
適合含有基準	手動	マテリアルの設計仕様への準拠に関する情報。
シリアル/ロット番号	手動	欠陥のあるバッチのアイテムのシリアル番号またはロット番号（製品のバッチに固有の識別子と同じ番号）。
合計数量予想	手動	問題があると予想される合計数量。 受け取った 500 ユニットのロットから 20 ユニットを検査し、5 ユニットに欠陥が発見された場合の例 <ul style="list-style-type: none"> - 合計数量予想 500 - 確認済数量 20 - 対象となった数量 5
確認済数量	手動	検査したアイテムの数。
対象となった数量	手動	問題の影響を受けたアイテムの実数。
暫定処置	手動	マテリアルに対して行われる暫定処置。

RMA 番号	手動	商品返品の確認。欠陥のあるマテリアルの返却を許可するためにサプライヤが発行する番号。通常は用紙に記入されます。
マテリアル合格日	手動	含有基準に適合したマテリアルをサプライヤが送信できる予定日。

PSRの「対象アイテム」タブへのアイテムの追加

「対象アイテム」テーブルの「追加」ボタンを使用して、PSR にアイテムを追加できます。既存のアイテムを検索するか、または新しいアイテムを作成します。アイテムには部品と BOM が含まれます。

Javaクライアントで「対象アイテム」タブにアイテムを追加するには

1. PSR を開き、「対象アイテム」タブをクリックします。

2. 「追加」ドロップダウン をクリックし、「作成」ボタン を選択して新しいアイテムを作成するか、「検索」ボタン を選択して1つ以上の既存のアイテムを検索するか、「既知の番号の入力」
, を選択して既知のアイテムを検索します。

アイテムを作成するには

1. 「タイプ」リストからタイプを選択します。
2. 適切な場合は、アイテムの番号と説明を入力してください。
3. 「OK」をクリックします。
アイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

既存のアイテムを検索するには

1. 「対象アイテムの追加」ダイアログ・ボックスから検索方法を選択します。
2. 簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、「検索」をクリックします。「詳細検索」の定義、「保存された検索」の実行、ブックマークを付けたアイテムの選択、または「最近訪れたところ」フォルダからの選択も行えます。
3. 検索結果からアイテムを選択します。右矢印を使用するか、選択したアイテムをダブルクリックして、関連するアイテムの選択列に移動します。
4. 異なるアイテム・リビジョンを選択したり、他のフィールドを編集する場合は、「追加後、行を編集」チェック・ボックスが選択されていることを確認してください。
5. 「OK」をクリックします。
「選択された対象アイテム」リストのアイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

既知の番号を入力するには

1. 1つ以上の番号をそれぞれの行に入力し、「追加」をクリックします。
2. アイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

注意 リストからオプションを選択せずに「追加」ボタンを1回クリックすると、「既知の番号の入力」ダイアログ・ボックスが表示されます。

WebクライアントでPSRの「対象アイテム」タブにアイテムを追加するには

1. PSR を開き、「対象アイテム」タブをクリックします。

2. 「対象アイテム」タブの「追加」をクリックします。

- 検索パレットを起動して既存のアイテムを検索するには、「検索して追加」ボタン  をクリックします。
- 新しいアイテムを作成するには、「作成して追加」ボタン  をクリックします。
- 「最近訪れたところ」フォルダからアイテムを選択し、「対象アイテム」テーブルにドラッグ・アンド・ドロップします。
- PSR に表示されているアイテムをコピーし、別の PSR の「対象アイテム」テーブルに貼り付けます。

既存のアイテムを検索するには

1. 「検索して追加」ボタン  をクリックして、検索パレットを起動します。[Ctrl]+[I]キーを使用して、検索フィールドを呼び出すこともできます。
2. 値または「*」を入力して検索を実行し、「簡易検索の実行」ボタン  をクリックします。
3. 表示されるリストからアイテムを選択します。アイテムを「対象アイテム」テーブルに移動するには、次のいずれかを実行します。
 - オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。
 - オブジェクトをダブルクリックします。
 - [Enter]を押します。
4. 「閉じる」ボタン  をクリックしてパレットを閉じます。
アイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

アイテムを作成するには

1. 「作成して追加」ボタン  をクリックします。
2. 「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。「タイプ」フィールドで、リストから「アイテム」を選択します。
3. 「番号」フィールドで番号を入力するか、「自動採番」ボタン  123 をクリックします。
4. 「説明」フィールドに詳細を入力します。
5. 「追加」をクリックしてアイテムをテーブルに追加するか、「キャンセル」をクリックして「対象アイテム」テーブルに戻ります。
アイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

オブジェクトをコピーして貼り付けるには

1. PSR の「対象アイテム」テーブルからアイテムを選択します（オブジェクトは「関連 PSR」タブ、「関係」タブまたは PSR の「添付ファイル」タブから取得されるか、または別のオブジェクトから取得されます）。
 2. 「詳細」ボタンをクリックし、「コピー」を選択します。
 3. 別の PSR の「対象アイテム」タブにナビゲートします。
 4. 「詳細」ボタンをクリックし、「貼付け」を選択します。
- アイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

注意 「PSR に対する多数のアイテム」という Agile PLM スマートルールが、複数のアイテムを PSR の「対象アイテム」タブに追加するかどうかを決定します。「PSR に対する多数のアイテム」が「可」と設定されている場合、1つ以上のアイテムを PSR に追加できます。それ以外の場合、PSR に追加できるのは1つのアイテム（1行）のみに制限されます。

「対象アイテム」タブからのアイテムの削除

Javaクライアントで「対象アイテム」タブからアイテムを削除するには

1. PSRを開き、「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 削除するアイテムの行を選択します。
3. 「削除」ボタンをクリックします。
4. メッセージ・プロンプト・ボックスの「OK」をクリックしてアイテムの削除を確認します。

Webクライアントで「対象アイテム」タブからアイテムを削除するには

1. PSRを開き、「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 削除するアイテムの行を選択します。
3. 「削除」をクリックします。

テーブルから削除された行数がメッセージ・バーに表示されます。

「対象アイテム」タブのアイテムの編集

アイテムが「リリース済」ステータスでないかぎり、必要に応じて「対象アイテム」タブのアイテムを複数回編集できます。フィールドを編集して、情報を追加したり、既存の情報を変更できます。

Javaクライアントで「対象アイテム」タブのアイテムを編集するには

1. PSRを開き、「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 編集するアイテム行を選択します。
3. 「対象アイテムの編集」ボタンをクリックします。「対象アイテムの編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 行のセルをダブルクリックし、該当するフィールドを編集します。
5. テキストを変更するか、リストを使用して値を選択します。
または、セルをダブルクリックし、内容を編集して[Enter]を押します。
6. 編集を完了したら、「OK」をクリックします。

フィールドの詳細は、25ページの「[PSRの「対象アイテム」タブ](#)」を参照してください。

注意 「修正リビジョン」を手動で更新すると、そのリビジョン変更に関連する ECO が「最新の変更」フィールドに自動的に入力されます。「修正リビジョン」のドロップダウン・リストには、このアイテムのすべてのリビジョンが含まれます。

たとえば、次の場合に「修正リビジョン」フィールドを手動で更新できます。

- 品質問題を提出し、既知の修正をリリースまたは実施している場合。この場合、「修正リビジョン」フィールドを更新するだけで、この問題が対処済でありその特定リビジョンで修正されていることを反映できます。
- 親を持たず、そして変更や QCR と関連付けられていない PSR を更新します。

Webクライアントで「対象アイテム」タブのアイテムを編集するには

1. PSRを開き、「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 編集する行を選択します。
3. 該当するフィールドを編集するには、セルをダブルクリックします。または、セルにナビゲートして[Enter]を押します。
4. テキストを入力するか、リストを使用して値を選択します。

- 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

注意 「修正リビジョン」を手動で更新すると、そのリビジョン変更に関連する ECO が「最新の変更」フィールドに自動的に入力されます。「修正リビジョン」のドロップダウン・リストには、このアイテムのすべてのリビジョンが含まれます。

「関連PSR」タブ

「関連 PSR」タブには、単一の親 PSR に集約される **PSR** のリストが表示されます。情報を編集し、関連 PSR を親 PSR に集約します。

たとえば、複数の顧客が似たような問題を報告した場合、報告された各問題に対して問題レポートが作成されます。品質チームは、問題に関連性があり、1つの解決策で解決可能であることに気付きます。問題を解決するために、品質チームは1つの **PSR**（親 PSR）を作成し、関連 PSR を親 PSR に追加（集約）します。

「関連 PSR」タブでは、次の列がデフォルトで表示および記述されています。

フィールド	設定方法	内容
適合した PSR 条件 (画像)	PSR イベント条件が満たされた場合、自動入力	<p>PSR イベントが発生した（親 PSR が PSR イベントについて選択されたステータスに達した）ことを示します。</p> <p>親 PSR が、「PSR イベント」フィールドで指定されたステータスに達すると、関連 PSR ステータスが、「PSR 結果」フィールドで指定されたステータスに自動的に移行し、所定の条件を満たします。</p>
イベント	手動	<p>自動ワークフロー・イベントのきっかけとなる親 PSR のステータス。</p> <p>リストから利用可能なステータスを選択します。PSR にワークフローが割り当てられている場合にのみステータスを指定できます。このイベントの発生は、PSR が指定のステータスに達したことを意味します。</p> <p>PSR イベントのデフォルトは「終了」ステータスに設定されています。品質分析権限がある場合、Java クライアントでデフォルト値を別のステータスに設定できます。詳細は、「「関係」タブ」を参照してください。</p> <p>注意: 「PSR イベント」のステータスを指定できるのは、「カバー・ページ」タブで親と子の両方のオブジェクトにワークフローが割り当てられている場合のみです。</p>

結果	手動	<p>イベント・ステータスに達した時点で、関連 PSR が昇格するステータス。リストから利用可能なステータスを選択します。PSR にワークフローが割り当てられている場合にのみステータスを指定できます。</p> <p>親 PSR が「PSR イベント」ステータスに達すると、関連 PSR のステータスは、このフィールドで指定した結果ステータスに自動的に移行します。</p> <p>PSR 結果のデフォルトは「終了」ステータスに設定されています。品質分析権限がある場合、Java クライアントでデフォルト値を別のステータスに設定できます。詳細は、「「関係」タブ」を参照してください。</p> <p>注意: 「PSR 結果」のステータスを指定できるのは、「カバー・ページ」タブで親と子の両方のオブジェクトにワークフローが割り当てられている場合のみです。</p>
PSR タイプ	自動	PSR のタイプ。
PSR 番号	PSR 番号の入力時に手動で入力	関連 PSR の番号。
PSR カテゴリ	自動	関連 PSR の品質問題カテゴリ。
PSR 顧客	自動	関連 PSR に関する顧客。
PSR サプライヤ	自動	関連 PSR に関するサプライヤ。
PSR 重大度	自動	関連 PSR の重大度。Agile PLM 管理者が重大度を定義します。
PSR 対応策	自動	PSR が解決された方法。
PSR 予定解決日	自動	関連 PSR の予定解決日。
PSR 品質分析者	自動	<p>関連 PSR に割り当てられた品質分析者。</p> <p>デフォルトの品質分析者に通知するようにワークフローが定義されている場合、このフィールドの部署のユーザーは PSR に関する通知を受信します。</p>
PSR ワークフロー	自動	品質追跡プロセスに従ってこの PSR を処理するために使用されるワークフローの名前。
PSR ステータス	自動	関連 PSR のワークフロー・ステータス。ワークフローが選択されていない場合、このフィールドは「未割当」です。
PSR 作成者	作成時に自動入力	デフォルトの PSR 作成者。

PSR 作成日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR を作成した日付。
PSR 提出日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR を提出した日付。
PSR リリース日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR をリリースした日付。
PSR 最終完成日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR が完了した日付。
集約 PSR 番号	PSR が「関連 PSR」タブに追加されるときに自動入力	親 PSR 番号に基づき自動入力されるフィールド。

- 注意** 「イベント」フィールドは、「パーソナライズ」メニューで選択した並替え順序に応じて、テーブルの昇順 または降順 を示します。
- 注意** 「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、filtration条件と並替え順序を定義することでいくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

関連PSRを親PSRに追加する

Javaクライアントで関連PSRを親PSRに追加するには

- PSRを開き、「関連 PSR」タブをクリックします。
- をクリックし、次のオプションの1つを選択します。
 - 「作成」ボタン を使用すると、オブジェクトを作成できます。
 - 「検索」ボタン を使用すると、既存のオブジェクトを検索できます。

オブジェクトを作成するには

- 「作成」ボタンをクリックします。「新規」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 「タイプ」リストからタイプを選択します。
 - オブジェクト番号を入力するか、「自動採番」 をクリックして新しい番号を生成します。
 - 「OK」をクリックします。
- オブジェクトが「関連 PSR」テーブルに表示されます。

1つ以上の既存のオブジェクトを検索するには

- 「関連オブジェクトの追加」ダイアログ・ボックスで、検索方法を選択します。
- 簡易検索を実行する場合は、値を入力して「検索」をクリックします。「詳細検索」の定義、「保存された検索」の実行、チェックマークを付けたオブジェクトの選択、または「最近訪れたところ」フォルダ(ショートカット)からの選択も行えます。
- 検索結果からオブジェクトを選択します。右矢印を使用するか、オブジェクトをダブルクリックして、「関連するオブジェクトの選択」列に移動します。

4. 異なるオブジェクト・リビジョンを選択したり、他のフィールドを編集する場合は、「追加後、行を編集」チェック・ボックスが選択されていることを確認してください。
5. 「OK」をクリックします。

オブジェクトが「関連 PSR」テーブルに表示されます。

注意 リストから選択せずに「追加」アイコンをクリックすると、「関連 PSR の追加」（検索）ダイアログ・ボックスが表示されます。

Webクライアントで関連PSRを親PSRに追加するには

1. PSR を開き、「関連 PSR」タブをクリックします。
2. 「関連 PSR」テーブルで、「追加」をクリックします。

- 検索パレットを起動して既存の PSR を検索するには、「検索して追加」ボタン  をクリックします。
- 新しい PSR を作成して「関連 PSR」タブに追加するには、「作成して追加」ボタン  をクリックします。
- 「最近訪れたところ」フォルダから PSR を選択し、「関連 PSR」テーブルにドラッグ・アンド・ドロップします。
- PSR に表示されている PSR をコピーし、別の PSR の「関連 PSR」テーブルに貼り付けます。

既存のオブジェクトを検索するには

1. 検索パレットを起動して既存の PSR を検索するには、「検索して追加」ボタン  をクリックします。検索フィールドを呼び出すには、[Ctrl]+[I]キーを使用します。
2. 値を入力するか「*」を入力して、「簡易検索の実行」ボタン  をクリックします。
3. 表示されるリストから PSR を選択します。PSR を「関連 PSR」テーブルに移動するには、次のいずれかを実行します。
 - オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。
 - オブジェクトをダブルクリックします。
 - [Enter]を押します。
4. 「閉じる」ボタン  をクリックしてパレットを閉じます。

オブジェクトが「関連 PSR」テーブルに表示されます。

新しいオブジェクトを作成するには

1. 新しい PSR を作成するには、「作成して追加」ボタン  をクリックします。
2. 「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。「タイプ」フィールドで、リストからオブジェクトを選択します。
3. 「番号」フィールドで番号を入力するか、「自動採番」ボタン  **123** をクリックします。
4. 「説明」フィールドに詳細を入力します。
5. 「追加」をクリックしてオブジェクトをテーブルに追加するか、「キャンセル」をクリックして「関連 PSR」テーブルに戻ります。

オブジェクトが「関連 PSR」テーブルに表示されます。

「関連PSR」タブのアイテムの編集

「関連 PSR」タブのフィールドの情報を編集して、情報を追加したり、既存の値を変更できます。

Javaクライアントで関連PSRを編集するには

1. PSRを開き、「関連PSR」タブをクリックします。
2. 「関連PSR」テーブルで、編集する行を選択します。
3. 「編集」ボタンをクリックして、行を編集します。
4. 編集するセルをダブルクリックします。
5. リストを使用して値を選択し、該当するフィールドを編集します。
6. 「OK」をクリックします。

Webクライアントで関連PSRを編集するには

1. PSRを開き、「関連PSR」タブをクリックします。
2. 「関連PSR」テーブルで、編集する行を選択します。
3. 編集するセルをダブルクリックします。

注意 開かないセルには、そのフィールドが編集不可であるというメッセージが表示されます。

4. リストを使用して値を選択し、該当するフィールドを編集します。
5. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

注意 「PSR イベント」ドロップダウン・リストに、親 PSR のステータスが表示されます。親および関連 PSR のステータスを選択し、親 PSR が「PSR イベント」で指定されたステータスに達したときに、関連 PSR が「PSR 結果」フィールドのステータスに移行するよう設定できます。

注意 たとえば、「PSR イベント」フィールドを「終了」に設定し、「PSR 結果」フィールドを「終了」に設定すると、親 PSR が「終了」ステータスに移行した際に、関連（子）PSR も自動的に「終了」ステータスへと移行します。

関連PSRを削除する

Javaクライアントで関連PSRを削除するには

1. PSRを開き、「関連PSR」タブをクリックします。
2. 削除するPSRを選択します。
3. 「削除」ボタンをクリックします。
ダイアログが表示され、確認後に関連PSRを削除するように促されます。

Webクライアントで関連PSRを削除するには

1. PSRを開き、「関連PSR」タブをクリックします。
2. 削除するPSRを選択します。
3. 「削除」をクリックします。
テーブルから削除された行数がメッセージ・バーに表示されます。

注意 親 PSR の番号が、PSR の「カバー・ページ」の「集約 PSR 番号」フィールドに表示されなくなります。

「関係」タブ

「関係」タブを使用すると、現在の PSR または QCR とルーティング可能なオブジェクトおよびライフサイクル・オブジェクトの間に関係を作成できます。この関係は、両方のオブジェクトの「関係」タブに表示されます。オブジェクト間にルールを指定できます（オプション）。

Agile オブジェクトの「関係」タブには、オブジェクト間のルールを指定するためのオプションがあります。 **PSR/QCR** にカーソルを合せると、「クリック・ビュー」情報リンクが表示されます。「クリック・ビュー」ダイアログ・ボックスをクリックすると、オブジェクトにナビゲートしなくとも実際の情報が表示されます。メッセージ・バーに「ルールの追加」リンクが表示され、(ルールを指定した場合は) ルールが Web クライアントに表示されます。ルールを指定すると、「ルールの編集」および「ルールの削除」リンクがメッセージ・バーに表示されます。特定のオブジェクトには、関連するビューを含むテーブル、およびユーザーが実行できるアクションが表示されます。

関係 - テーブル

「関係」テーブルにはすべての Agile オブジェクトが表示されます。「関係」テーブル:

存在 - その機能がクラスとサブクラスに存在することを示します。

「関係」 (ルールあり) 列

はい: その機能をクラスおよびサブクラスに追加できることを示します。

いいえ: その機能をサポートしていないことを示します。

「イベント」 / 「結果」 列

ワークフロー: そのオブジェクトのワークフローのステータスに基づいて、クラス・オブジェクトのイベント/結果を示します。

ライフサイクル: そのオブジェクトのライフサイクルのステータスに基づいて、クラス・オブジェクトのイベント/結果を示します。

Agile 基本クラス	Agile クラス	イベント/結果	関係 (ルールあり)	参照 - 関係 (ルールなし)	変更管理に基づくライフサイクル
変更	変更指示	ワークフロー	存在	存在	NA
	変更要求	ワークフロー	存在	存在	NA
	期限付き変更指示	ワークフロー	存在	存在	NA
	製造元依頼	ワークフロー	存在	存在	NA
	価格変更	ワークフロー	存在	存在	NA
	拠点毎変更	ワークフロー	存在	存在	NA
	出荷停止	ワークフロー	存在	存在	NA
顧客	顧客	ライフサイクル	はい	存在	いいえ
デクラレーション	均質材のデクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	IPC 1752-1 デクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	IPC 1752-2 デクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	JGPSSI デクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	部品のデクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	サブスタンスのデクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	適合のサプライヤ・デクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
ファイル・フォルダ	ファイル・フォルダ	ライフサイクル	はい	存在	いいえ
アイテム	ドキュメント	ライフサイクル	はい	はい	NA

	部品	ライフサイクル	はい	はい	NA
製造元部品	製造元部品	ライフサイクル	はい	はい	NA
製造元	製造元	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
パッケージ	パッケージ	ワークフロー	はい	はい	
部品グループ	部品グループ	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
価格	公表プロセス	ライフサイクル	はい	はい	はい
	見積履歴	ライフサイクル	はい	存在	はい
PSR	不具合レポート	ワークフロー	存在	存在	NA
	問題レポート	ワークフロー	存在	存在	NA
プログラム	アクティビティ	ワークフロー	存在	存在	NA
	ゲート	ワークフロー	存在	存在	NA
QCR	検証	ワークフロー	存在	存在	NA
	是正・予防処置	ワークフロー	存在	存在	NA
見積依頼	見積依頼	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
見積依頼回答	見積依頼回答	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
拠点	拠点	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
ソーシング・プロジェクト	ソーシング・プロジェクト	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
含有基準	含有基準	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
サブスタンス	マテリアル	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
	サブパート	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
	サブスタンス	ライフサイクル	はい	はい	いいえ

サプライヤ	サプライヤ	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
転送依頼	自動転送	ワークフロー	はい	はい	NA
	コンテンツ 転送	ワークフロー	はい	はい	NA
ユーザー・ グループ	ユーザー・グ ループ	なし	いいえ	はい	NA
ユーザー	ユーザー	ステータス属性	いいえ	はい	NA
アクション・ アイテム	アクション・ アイテム	ステータス属性	いいえ	いいえ	NA
ディスカッ ション	ディスカッ ション	なし	いいえ	はい	NA
レポート	カスタム・ レポート	なし	いいえ	いいえ	NA
	外部レポート	なし	いいえ	いいえ	NA
	標準レポート	なし	いいえ	いいえ	NA

PQMにおける関係

ここでは、PQM ソリューションで使用される関係に関する追加情報を示します。

重要 関係がPQMオブジェクト間で作成される場合、その関係に対して空白のルールが作成されます。PQM オブジェクトが相互に及ぼす影響を定義するには、空白のルールを編集する必要があります。

- QCR が PSR に影響する、つまり QCR と PSR に関連性があり、関係ルールが次のフォーマットを使用している場合

<QCR ソース・オブジェクト>が<イベント>の場合、<PSR ターゲット・オブジェクト>を<結果>に設定 PSR の「対象アイテム」タブのすべてのアイテムが、QCR の「PSR アイテム」テーブルに表示されます。 PSR を使用して複数の PSR を集約した場合は、関連 PSR の対象アイテムが表示されます。
- この QCR が PSR の影響を受ける、つまり QCR と PSR に関連性があり、ルールが次のフォーマットを使用している場合

<PSR ソース・オブジェクト>が<イベント>の場合、<QCR ターゲット・オブジェクト>を<結果>に設定 PSR の「対象アイテム」タブのすべてのアイテム、および関連する PSR の対象アイテムは、QCR の「PSR アイテム」テーブルに表示されません。

関係の属性

オブジェクトを成果物としてプロジェクトに追加する場合、そのオブジェクトの「関係」タブにもプロジェクトを追加します。これら2つのオブジェクト間に関係ルールを定義でき、ルールを両方のオブジェクトから表示できます。

- オブジェクトを関係として2番目のオブジェクトに追加すると、逆転関係が作成され、最初のオブジェクトの「関係」タブの下に2番目のオブジェクトが表示されます。
- 2つのオブジェクト間にデフォルトの関係ルールはありません。
- リビジョンのあるオブジェクトに関係を追加する場合
 - ルールが保留中の場合にのみ、部品またはドキュメントの名前フィールドにオブジェクト名または番号が表示されます。オブジェクト名または番号をクリックします。編集可能フィールドでテキストを入力するか、リストを使用します。リビジョンに最新のリビジョンが表示されます。
 - ルールに適合する場合（たとえば、イベントのライフサイクルが発生した場合）、オブジェクトのリビジョンが名前フィールドに表示されます。
 - たとえば、きっかけとなるイベントが、ライフサイクルが製造に移行する時点の場合、製造フェーズで発生した最初のリビジョンがここに表示されます。
 - 名前フィールドの値はハイパーリンクが設定され、リビジョンのカバー・ページにリンクされます。
 - Java クライアントでルールを追加、編集または削除するには、それぞれ「ルールの追加」、「ルールの編集」または「ルールの削除」ボタンをクリックします。
 - Web クライアントでは、メッセージ・バーにルールが表示されます。ルールの編集およびルールの削除リンクを使用して、ルールを編集および削除することもできます。
 - 指定された条件を満たす場合、フォルダ・バージョンに関連する添付ファイルが表示されます。

詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』の「関係」を参照してください。

「関係」タブのツール

「関係」タブには次のボタンがあります。

- **追加:** オブジェクトを追加できます。
- **削除:** オブジェクトを削除できます。
- **ルールの編集:** ルールを追加または編集できます。
- **詳細:** ユーザーが実行できるその他のアクション（コピー、貼付け、下方へコピー、上方へコピー）が表示されます。

「関係」タブのページには、「表示」および「パーソナライズ」ボタンがあります。「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義することでいくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

39ページの「[「関係」テーブル](#)」も参照してください。ビューの詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile Web クライアントの操作」を参照してください。

「関係」テーブル

「関係」テーブルには、デフォルトで次の列が含まれています。

フィールド	設定方法	内容
適合した条件 (画像)	自動。（追加されたオブジェクトの関係ルールが満たされた場合）	追加されたオブジェクトが、指定ステータスを取得した場合に示されます。条件が満たされると、Web クライアントの場合  のシ

		シンボルが表示されます。
タイプ(画像)	自動	追加するオブジェクトのタイプ(画像)。
名前	自動	オブジェクトの名前。
説明	自動	追加するオブジェクトの説明と番号。(PR00054)など。
現在のステータス	オブジェクトの追加時に自動入力	関連オブジェクトの現在のステータス。
ルール	ルールの追加時に自動入力	指定したルールが表示されます。 注意: ルールを指定できるのは、ワークフローを PSR に割り当てる場合のみです。
タイプ	自動	追加されたオブジェクトのタイプ(問題レポートなど)。

注意 「名前」フィールドは、「パーソナライズ」メニューで選択した並替え順序に応じて、テーブルの昇順 または降順 を示します。

注意 「パーソナライズ」メニューを使用すると、カスタマイズされたビューを作成できます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義することでいくつかのビューを作成して保存します。使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

PSRの「関係」タブへのオブジェクトの追加

すべての Agile オブジェクトを「関係」テーブルに追加できます。Agile オブジェクト間の関係を定義するために、管理者は適切な権限を設定する必要があります。

Javaクライアントで「関係」テーブルにオブジェクトを追加するには

- PSRを開いて「関係」タブをクリックします。

- 「関係」テーブルの「追加」ボタン をクリックします。

- 「作成」ボタン を使用すると、新しいオブジェクトを作成できます。
- 「検索」ボタン を使用すると、1つ以上の既存のオブジェクトを検索できます。

オブジェクトを作成するには

- 「作成」ボタンをクリックします。「新規」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 「タイプ」リストからサブクラスを選択します。
- 番号を入力するか、「自動採番」ボタン をクリックします。
- 「OK」をクリックします。

オブジェクトが「関係」タブに表示されます。

既存のオブジェクトを検索するには

- 「関係の追加」ダイアログ・ボックスで、検索方法を選択します。
- 簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、「検索」をクリックします。「詳細検索」の定義、「保存された検索」の実行、チェックマークを付けたオブジェクトの選択、または「最近訪れたところ」フォルダ(ショートカット)からの選択も行えます。
- 検索結果からアイテムを選択します。検索結果は、PSR、QCR、変更のいずれかです。右矢印を使用する

- か、選択したオブジェクトをダブルクリックして、「**選択した関連オブジェクト**」列に移動します。
4. 異なるアイテム・リビジョンを選択したり、他のフィールドを編集する場合は、「**追加後、行を編集**」チェック・ボックスが選択されていることを確認してください。
 5. 「OK」をクリックします。

選択したオブジェクトが「**関係**」テーブルに表示されます。

Webクライアントで関係または参照をオブジェクトに追加するには

1. オブジェクトの「**関係**」タブに移動します。
2. 次のオプションのいずれかを使用して、「**関係**」テーブルに行を追加します。
3. 「**追加**」メニュー・ボタンをクリックし、次のオプションの1つを選択します。
 - 「**検索**」を選択して検索パレットを開きます。簡易検索を実行して、目的のオブジェクトを検索します。ダブルクリックしてオブジェクトを追加します。[Esc]を押してパレットを閉じます。
 - 「**作成**」を選択して新しいオブジェクトを作成します。オブジェクト・タイプを選択し、該当するフィールドに入力した後、「**追加**」をクリックします。新たに作成されたオブジェクトがテーブルに追加されます。
4. ドラッグ・アンド・ドロップします
 - 左側のナビゲーション・ウインドウでオブジェクトを選択します。オブジェクトをテーブルにドラッグしてドロップします。「**私のブックマーク**」、「**最近訪れたところ**」リストおよび「**ナビゲータ**」ドローワからドラッグ・アンド・ドロップできます。
5. コピー・アンド・ペーストします
 - テーブル（「検索結果」テーブル、「BOM」テーブル、「使用箇所」テーブルなど）から1つ以上のオブジェクトをコピーします。「**詳細**」>「**コピー**」または[Ctrl]+[C]を使用して、行をコピーします。
 - 関係を追加するオブジェクトを開きます。「**関係**」タブをクリックして表示します。「**詳細**」>「**貼付け**」または[Ctrl]+[V]を使用して、行を貼り付けます。

問題レポートまたは不具合レポートを他の Agile オブジェクトの「**関係**」タブに追加できます。

「関係」テーブルの編集

「**関係**」テーブルを編集して、情報を追加したり、既存の情報を変更できます。

Javaクライアントで「関係」テーブルを編集するには

1. PSRを開いて「**関係**」タブをクリックします。
2. 編集する行を選択します。
3. 「**関係の編集**」ボタンをクリックします。
4. 該当するフィールドを変更します。
5. 「OK」をクリックします。

変更された値がテーブルに表示されます。

Webクライアントで「関係」テーブルを編集するには

1. PSRを開いて「**関係**」タブをクリックします。
2. 編集するフィールドをダブルクリックします。
3. 該当するフィールドを変更します。
4. 「**保存**」をクリックします。

変更された値がテーブルに表示されます。

関係の削除

不適切とわかった場合、「関係」タブのオブジェクトを削除できます。オブジェクトの「関係」タブから関係を削除すると、関連するオブジェクトの「関係」タブからも削除されます。

Javaクライアントで関係を削除するには

1. PSRを開いて「関係」タブをクリックします。
2. 削除するオブジェクト行を選択します。
3. 「関係の削除」ボタンをクリックします。

オブジェクトが「関係」テーブルに表示されなくなります。

Webクライアントで関係を削除するには

1. PSRを開いて「関係」タブをクリックします。
2. 削除するオブジェクト行を選択します。
3. 「削除」ボタンをクリックします。

削除された行数がメッセージ・バーに表示されます。オブジェクトが「関係」テーブルに表示されなくなります。

関係ルール

関係ルールでは、オブジェクトに対して定義されるワークフローが別のオブジェクトのワークフロー・ステータスに及ぼす影響が指定されます。たとえば、PR0048が提出されると、PR00049が「レビュー」に設定されます。

- **ライフサイクル・オブジェクトは関係のソースにのみなることができ、関係のターゲットにはできません。**
ライフサイクル・オブジェクトは関係のソースにのみなることができ、関係のターゲットにはできません。ライフサイクル・オブジェクトからワークフロー・オブジェクトに関係を追加すると、ライフサイクルのステータスがワークフロー・オブジェクトのステータスに影響します。
たとえば、製品サービス依頼（ワークフロー・オブジェクト）PR00061と（ワークフロー・オブジェクト）設計変更指示の間に関係ルールが定義されているとします。このルールでは、PR00061がリリースされたときに設計変更指示を「リリース済」にすることが定義されています。元オブジェクト（PR00061）と先オブジェクト（設計変更指示）の関係をルールで決定し、ルールが影響を与えるのはワークフロー・オブジェクトのみになるようにします。
ワークフロー・オブジェクトからライフサイクル・オブジェクトに関係を追加すると、ライフサイクル・オブジェクトのステータスはワークフロー・オブジェクトのステータスに影響し、逆方向には影響しません。
- **ワークフロー・オブジェクトから関係を追加すると、他のワークフロー・オブジェクトに両方向で関係ルールを定義できます。**
たとえば、QCR QCR12345とPSR PR55768の2つのワークフロー・オブジェクト間の関係では、「場合」ドロップダウンにQCR12345とPR55768の2つのオブジェクトが表示され、「設定」ドロップダウンにも同じ2つのオブジェクトが表示されます。「場合」と「設定」の両方で同じオブジェクトは選択できません。「場合」リストからオブジェクトを選択すると、「設定」フィールドは別のオブジェクトでアップグレードされます。
関係は両方のオブジェクトから表示可能で、表示されるルールは同じにする必要があります。
- **2つのライフサイクル・オブジェクト間に関係ルールは定義できません。**
関係ルールはライフサイクル・オブジェクトとワークフロー・オブジェクト間にのみ定義可能で、2つのライフサイクル・オブジェクト間には定義できません。

関係ルールの追加

「関係」タブには、オブジェクト間のルールを関連付けるためのオプションがあります。特定のオブジェクトには、関連するビューを含むテーブル、および関連オブジェクトで実行可能なアクションが表示されます。

たとえば、「関係」タブにアイテムを追加すると、テーブルには「対象アイテム」テーブルと「アイテム番号」および「アイテムの説明」フィールドが表示されます。番号フィールドにはハイパーリンクが設定されます。

このオブジェクトの詳細にアクセスするには、「クイック・ビュー」情報リンクをクリックします。この情報リンクは、対応するオブジェクトにカーソルを合せたときに表示されます。オブジェクトの詳細を表示し、実際のオブジェクトにナビゲートしなくともいくつかのアクションを実行できます。

「クイック・ビュー」ダイアログ・ボックスのメッセージ・バーに「ルールの追加」リンクが表示され、ルールを指定できます。ルールを指定すると、「ルールの編集」および「ルールの削除」リンクも表示されます。

Javaクライアントで関係ルールを追加するには

1. PSRを開いて「関係」タブをクリックします。
2. ルールを追加する PSRを選択します。
3. 「ルールの追加」ボタン  をクリックします。
4. 「関係ルール」ダイアログ・ボックスが開きます。ルールを指定します。

例:

PR0002 が「レビュー」の場合

PR123304 を「提出済」に設定します。

5. 「OK」をクリックします。

対応するオブジェクトの「関係」テーブルにルールが表示されます。

Webクライアントで関係ルールを追加するには

1. PSRを開いて「関係」タブをクリックします。
2. 「関係」テーブルで、「ルールの編集」ボタンを使用してルールを追加するか、PSRにカーソルを合せたときに表示される「クイック・ビュー」情報リンクをクリックします。
3. ダイアログ・ボックスが表示されます。メッセージ・バーに「追加」ルール・リンクまたはルール（指定されている場合）が表示されます。
4. 「ルールの追加」リンクをクリックします。
5. 「関係ルール」ダイアログ・ボックスが開きます。ルールを指定します。

例:

問題レポート PR000142 が「レビュー」の場合

問題レポート PR00144 を「提出済」に設定します。

6. 「保存」をクリックします。
ルールがメッセージ・バーに表示されます。

7. 「閉じる」ボタン  をクリックしてパレットを閉じます。
または、「ルールの編集」ボタンを使用してルールを追加することもできます。

対応するオブジェクトの「関係」テーブルにルールが表示されます。

関係ルールの編集

「関係」テーブルでオブジェクトのルールを変更できます。「関係」テーブルの「ルールの編集」ボタン、または「クイック・ビュー」ダイアログ・メッセージ・バーに表示される「ルールの編集」を使用します。

Javaクライアントで関係ルールを編集するには

1. PSRを開いて「関係」タブをクリックします。
2. 編集する「関係」テーブルの行を選択します。

3. 「ルールの編集」ボタン  をクリックします。
4. 「関係ルール」ダイアログ・ボックスで、ルールを変更します。
5. 「OK」をクリックします。

変更したルールが「関係」テーブルに表示されます。

Webクライアントで関係ルールを編集するには

1. PSRを開いて「関係」タブをクリックします。
2. 次のいずれかを実行できます。
 - 「ルールの編集」ボタンをクリックします。
 - 「関係ルール」ダイアログ・ボックスで、ルールを変更します。
 - 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

PSRにカーソルを合せたときに表示される「クイック・ビュー」情報リンクをクリックします。

- 「ルールの編集」リンクをクリックします。
- 「関係ルール」ダイアログ・ボックスで、ルールを変更します。
- 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

3. 「閉じる」ボタン  をクリックしてパレットを閉じます。

変更したルールが「関係」テーブルに表示されます。

関係ルールの削除

該当しない場合、関係に関連付けられたルールを削除できます。Webクライアントで、ルールを指定すると、「関係」ダイアログ・ボックスのメッセージ・バーに「ルールの削除」リンクが表示されます。

Javaクライアントで関係ルールを削除するには

1. PSRを開いて「関係」タブをクリックします。
2. ルールを含む「関係」テーブルの行を選択します。
3. 「ルールの削除」ボタン  をクリックします。ルールの削除を確認するダイアログ・ボックスが表示されます。

ルールが「ルール」列に表示されなくなります。

Webクライアントで関係ルールを削除するには

1. PSRを開いて「関係」タブをクリックします。
2. PSRにカーソルを合せたときに表示される「クイック・ビュー」情報リンクをクリックします。
3. 開いたダイアログ・ボックスで、「ルールの削除」リンクをクリックします。
または、「関係」テーブルの「ルールの編集」ボタンを使用して、ルールを削除します。

ルールが「ルール」列に表示されなくなります。

フィルタ

フィルタを使用すると、PSRの「関係」タブで、含まれるルールによってオブジェクトを絞り込むことができます。フィルタ・オプションを使用して、設定する属性で関係をフィルタリングできます。Javaクライアントの「関係」タブには「フィルタ」ボタンがあります。Webクライアントでは、「パーソナライズ」メニューを使用して関係をフィルタリングします。

Javaクライアントでは、デフォルトの「表示」オプションは4つの値で構成されています。

すべての関係

このフィルタでは、テーブルのすべての関係オブジェクトをフィルタリングできます。

完了

このフィルタでは、ルール条件を満たすオブジェクトすべてをフィルタリングできます。

保留中

このフィルタでは、ルール条件を満たさないオブジェクトをフィルタリングできます。

ルールが指定されていません

このフィルタでは、ルールが指定されていないオブジェクトをフィルタリングできます。



「フィルタの表示」ボタン をクリックします。「関係」テーブルの上に追加行が表示されます。次の属性を使用してフィルタリングできます。

- 適合した条件: 指定された条件に適合した関係をフィルタリングします。
- 名前: 名前によって関係をフィルタリングします。
- 説明: 説明によって関係をフィルタリングします。
- ルール: ルールによって関係をフィルタリングします。
- タイプ: タイプによって関係をフィルタリングします。

Web クライアントの右上にある「表示」メニューでは、「パーソナライズ」メニューを使用してビューを作成できます。「パーソナライズ」メニューを使用すると、関係をフィルタリングできます。「テーブルのパーソナライズ」パレットのオプションに基づいてフィルタ条件を定義します。

次に示す追加の属性を使用すると、関係をさらにフィルタリングできます。

- 適合した条件: 指定された条件に適合した関係をフィルタリングします。
- 名前: 名前によって関係をフィルタリングします。
- 説明: 説明によって関係をフィルタリングします。
- 現在のステータス: 現在のステータスを使用してフィルタリングします。
- ルール: ルールによって関係をフィルタリングします。
- タイプ: タイプによって関係をフィルタリングします。

「表示」および「パーソナライズ」メニューの詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

PSRの「ワークフロー」タブ

Agile PLM ワークフローとは、品質管理プロセス内でルーティング可能なオブジェクトが従うステータスの流れです。「ワークフロー」タブには、「カバー・ページ」で選択したワークフローのフローチャートが表示されます。

「ワークフロー」タブのページには 2 つのセクションが表示されます。

1. **要約:** 現在のステータスのサインオフ情報が表示されます。このセクションは、レビュー・ステータスまたはリリース・ステータスに対して表示されます。
2. **ワークフロー:** 現在のワークフローのチャートが表示されます。このセクションは、ワークフローに割り当てるすべての変更に対して表示されます。

色はワークフローのステータスを表します。

- 緑: 以前に実行したステータス
- オレンジ: 現在のステータス
- 青: 将来のステータス

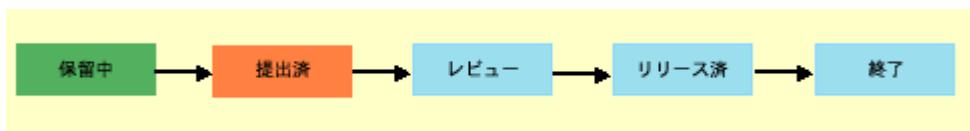
「サインオフ履歴」テーブルには、**PSR** の過去のワークフローとサインオフの情報が表示されます。**PSR** のルートの例を次に示します。

- 予備調査のために社内でルート
- 是正処置が必要かどうかの確認を依頼するために管理者にルート
- 詳細情報の提供を担当するサポート・コール・センター/フィールド・サービス担当者にルート
- 実施した修正の最終承認を求めて顧客にルート
- 問題への対応を求めてサプライヤにルートなど

「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義していくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。「レビュー者の追加」「レビュー者の削除」ボタンを使用すると、承認者とオブザーバを追加または削除できます。

詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

PSR で使用できるワークフロー・ステータスの図を次に示します。問題レポートのワークフローは、不具合レポートのワークフローに似ています。



PSRを提出、ルートする

プロセスを表すクラスからルーティング可能なオブジェクトを作成できます。たとえば、変更管理プロセス内の変更、製品サービス依頼などです。ワークフローを経由して承認を求めるために、Agile PLM ユーザーにオブジェクトをルートします。オブジェクトをルートするには、**PSR** の「カバー・ページ」にある「次のステータス」ボタンを使用します。ルート管理者はオブジェクトのルートおよび承認プロセスを監視し、ルーティング可能なオブジェクトを評価して割り当て、電子メール通知を受信します。品質分析者は、**PSR** のデフォルトのルート管理者です。

詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

PSRの「添付ファイル」タブ

添付ファイルには、フォーム・ファイル、ドキュメント、図面、画像内の補助的なデータが含まれています。すべての Agile PLM オブジェクトの「添付ファイル」タブからファイルと URL を参照できます。添付ファイルと URL を追跡して検索し、自動的に作成されるファイル・フォルダというオブジェクト（「ファイル・フォルダ」クラスからの参照情報のオブジェクト）にそのファイルを追加することもできます。

実際の添付ファイルは、Agile ファイル・マネージャ（ファイル格納庫と呼ばれます）に保存されます。添付ファイルには、オブジェクトやプロセスを説明する情報が含まれます。たとえば、部品やサブアセンブリを説明する含有基準であれば、次のような添付ファイルを持つ可能性があります。

- 表示可能なフォーマットの図面ファイル（CAD 図面など）またはスキャンした画像ファイル
- ドキュメント、表示不可能なファイル、圧縮（ZIP）ファイルなど

「添付ファイル」タブのアクションを使用すると、添付ファイルのコピーの追加、削除、開く、表示、印刷または取得を実行できます。また、添付ファイルのチェックインとチェックアウトも可能です。ただし、実際にファイル・フォルダ・オブジェクトのチェックインとチェックアウトを行うことになります。

注意 「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義することでいくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』の「添付ファイルを操作する」も参照してください。

PSRへの添付ファイルの追加

Javaクライアントで添付ファイルをPSRに追加するには

1. PSRを開いて「添付ファイル」タブをクリックします。
2. 「ファイルの追加」ボタンをクリックします。
3. 「ファイルのアップ・ローダー」ダイアログ・ボックスで、「ファイルの参照」ボタンをクリックします。
4. 追加するファイルを選択してダブルクリックします。
5. 「オプション」矢印をクリックします。
6. リストからファイルのタイプを選択します。
7. 必要に応じて次のオプションを選択します。
 - アップロード時 ZIP ファイルをすべて解凍する
 - すべてのファイルを 1 つのファイル・フォルダに追加
 - 追加後、行を編集
8. 「アップロード」をクリックします。

プロンプトで、ローカル・ディスクからアップロードされたファイルを削除します。

ファイルが「添付ファイル」テーブルに表示されます。

Webクライアントで添付ファイルをPSRに追加するには

1. PSRを開いて「添付ファイル」タブをクリックします。
2. 「追加」ボタンのリストから「ファイル」/「URL」/「検索」を選択します。
3. 「ファイルの追加」を選択します。「ファイルの追加」ダイアログ・ボックスが表示される前に、「ファイルのアップロード/ダウンロード方法」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 「標準ブラウザ機能の使用」/「Java アップロード/ダウンロード・ツールの使用」を選択します。
 - 「OK」をクリックします。
 - 「参照」ボタンを使用して、「ファイルの追加」ダイアログ・ボックスでファイルを検索します。
 - 添付されたファイルを含むファイル・フォルダが作成されます。選択されたファイルをファイル・フォルダに追加するには、「すべてのファイルを 1 つのファイル・フォルダに追加」チェック・ボックスを選択します。それ以外の場合は、選択したファイルごとにファイル・フォルダが作成されます。
 - 「追加」をクリックします。

ファイル名とファイル・フォルダ・オブジェクトが「添付ファイル」テーブルに表示されます。
4. 「URL」を選択します。「URL の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 選択した URL を 1 つのファイル・フォルダに追加するには、「すべての URL を 1 つのファイル・フォルダに追加」チェック・ボックスを選択します。それ以外の場合は、URL ごとに個別のファイル・フォルダが作成されます。
 - 「追加」をクリックします。

URL とファイル・フォルダ・オブジェクトが「添付ファイル」テーブルに表示されます。

5. 「検索」を選択します。「ファイルの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 「ファイルの追加」パレットで、「*」ワイルドカードを入力してファイルまたは URL を検索します。ファイルの最新バージョンを選択することもできます。
 - 選択したファイルを「添付ファイル」テーブルに移動するには、次のいずれかを実行します。
 - ファイルをドラッグ・アンド・ドロップします。
 - ファイルをダブルクリックします。
 - ファイルを選択して「Enter」を押します。
 - URL アドレスを入力します。または、URL をコピーして貼り付けることもできます。
 - 下部のテーブルに、選択したオブジェクトと対応する添付ファイルが表示されます。
 - 「閉じる」ボタン  をクリックするか、「Esc」ボタンを押してパレットを閉じます。
- ファイル/URL とファイル・フォルダ・オブジェクトが「添付ファイル」テーブルに表示されます。

PSRからの添付ファイルの削除

JavaクライアントでPSRから添付ファイルを削除するには

1. PSRを開いて「添付ファイル」タブをクリックします。
 2. 削除するファイル/URLを選択します。
 3. 「削除」ボタン  をクリックします。
ファイル/URL が「添付ファイル」タブに表示されなくなります。
- ### WebクライアントでPSRから添付ファイルを削除するには
1. PSRを開いて「添付ファイル」タブをクリックします。
 2. 削除するファイルまたは URL を選択します。
 3. 「削除」ボタンをクリックします。
ファイル/URL が「添付ファイル」テーブルに表示されなくなります。メッセージ・バーに削除された行数が表示されます。

品質変更要求を使用する

Product Quality Management では、品質変更要求（QCR）により検証や是正・予防処置が作成および管理されます。QCR を使用すると、問題が発生した場合にルーティング可能な品質記録に集約して不良の原因を分析し、標準の CAPA の手順を使用して問題を解決できます。

この章のトピック

- 49 ページの「[QCRを作成する](#)」
- 52 ページの「[QCRの「カバー・ページ」タブ](#)」
- 55 ページの「[QCRの「対象アイテム」タブ](#)」
- 57 ページの「[QCRの「関係」タブ](#)」
- 57 ページの「[QCRの「ワークフロー」タブ](#)」
- 59 ページの「[QCRの「添付ファイル」タブ](#)」
- 59 ページの「[QCRを提出、ルートする](#)」

QCRを作成する

適切な権限がある場合、QCR オブジェクトは、他の Agile PLM オブジェクトと同様に作成できます。品質管理者の役割がある場合、QCR に関するすべての機能を実行できます。役割と権限の詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

「新規オブジェクト」ボタンまたは「名前を付けて保存」機能を使用して QCR を作成できます。

JavaクライアントでQCRを作成するには

1. Java クライアントを起動します。
2. 「新規オブジェクト」ボタン  をクリックします。「新規オブジェクト」ダイアログ・ボックスが開きます。
3. 「タイプ」リストで値を選択します。
4. 「QCR 番号」フィールドで表示された番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
5. 「OK」をクリックします。

Agile Java クライアントが QCR オブジェクトを作成し、QCR（検証または是正・予防処置（CAPA））が編集モードで「カバー・ページ」タブとともに表示されます。

WebクライアントでQCRを作成するには

1. Agile Web クライアントを起動します。
2. メイン・ツールバーから「新規作成」ドロップダウン・ボタンをクリックします。「品質変更要求」>「検証」または「是正・予防処置」の順に選択します。「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「タイプ」フィールドで、リストから値を選択します。
4. 「QCR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
5. 「保存」をクリックします。

Agile Web クライアントが QCR を作成し、QCR が編集モードで「カバー・ページ」タブとともに表示されます。

QCR にワークフローを割り当てていない場合は、「未割当」ステータスが表示されます。

QCRにワークフローを割り当てるには

1. QCR を開き、「編集」ボタンをクリックします。
2. 「ワークフロー」リストからワークフローを選択します。詳細は、「QCR の「ワークフロー」タブ」を参照してください。
3. 「保存」をクリックします。

保存された QCR のステータスがページの右隅に表示されます。たとえば、割り当てられるステータスは「準備完了」、「提出済」、「レビュー」または「リリース済」です。

注意 検証日前に、作成者および品質管理者に対して検証の催促が送信されます。「変更」権限がある場合、ファイルで検証催促日を設定できます。

「名前を付けて保存」を使用したQCRの作成

「名前を付けて保存」機能を使用して QCR を作成できます。「名前を付けて保存」機能では、既存のオブジェクトのフィールドから新しいオブジェクトの同じフィールドにデータがコピーされるため、値が異なる同様のオブジェクトが作成されます。

クラスやサブクラスが異なるオブジェクトの作成に「名前を付けて保存」機能を使用しないでください。このようなオブジェクトには、同じタブ/フィールドが含まれていないため、データを失う可能性があります。

警告 既存のオブジェクトのフィールドまたはリストの値が新規オブジェクトで使用できない場合、そのフィールドまたはリストの値は新規オブジェクトにコピーされません。

Javaクライアントで「名前を付けて保存」機能を使用してQCRを作成するには

1. 新規 QCR の基本となる QCR を開きます。
2. 右クリックし、「名前を付けて保存」を選択します。または、メイン・ツールバーから「ファイル」を選択し、「名前を付けて保存」を選択します。「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「タイプ」リストで、「検証」または「是正・予防処置」を選択します。
4. 「QCR 番号」のフィールドで、表示された番号を受け入れます。番号を入力するか、「自動採番」ボタン をクリックして番号を生成することもできます。
5. 「OK」をクリックします。
6. Agile Java クライアントが QCR (検証または是正・予防処置 (CAPA)) を作成し、QCR が編集モードで「カバー・ページ」タブとともに表示されます。
7. 該当するフィールドを変更します。
8. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

Webクライアントで「名前を付けて保存」機能を使用してQCRを作成するには

1. 新規 QCR の基本となる QCR を開きます。
2. 「アクション」ドロップダウン・メニューをクリックします。
3. 「名前を付けて保存」を選択します。
4. 表示される「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスで、「タイプ」リストから「検証」または「是正・予防処置」を選択します。
5. 「QCR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン **123** をクリックして番号を生成します。
6. 「保存」をクリックします。
7. QCR が編集モードで「カバー・ページ」を表示して開きます。該当するフィールドを変更します。

8. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。
9. QCR に「カバー・ページ」が表示されます。

注意 Agile PLM 管理者によって適切なプリファレンスが設定されている場合、オプションの「ページ 2」と「ページ 3」セクションのフィールドが新規オブジェクトにコピーされます。使用中の Agile PLM システムにおける「ページ 2」と「ページ 3」フィールドの動作については、Agile PLM 管理者にお問い合わせください。「ページ 3」のデータは特定のサブクラスにのみ適用されるため、「名前を付けて保存」機能を使用してサブクラスの異なる新規オブジェクトを作成した場合、「ページ 3」のデータは新規オブジェクトにコピーされません。

「ページ 2」と「ページ 3」フィールドの「名前を付けて保存」設定を有効にするには、Java クライアントの「管理」>「サーバー設定」>「プリファレンス」の「異なるクラスのページ 2 として保存」、「異なるクラスのページ 3 として保存」および「異なるサブクラスのページ 3 として保存」を参照してください。

アイテムからのQCRの作成

PSR または個別アイテムから QCR を作成できます。問題を終了に導くためにアイテムから QCR を作成する場合、次の操作を行います。

- QCR の「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加
- アイテムの「品質」タブの「QCR」テーブルに QCR を追加

QCR を承認した後、変更を通してアイテムをルートすることで、欠陥が修正され、アイテムが新しいリビジョンに変更されます。

JavaクライアントでアイテムからQCRを作成するには

1. 既存のアイテムを開きます。
2. オブジェクト・ウィンドウを右クリックし、ドロップダウン・メニューから「品質変更要求(QCR)の作成」を選択します。
3. 「タイプ」リストから目的のサブクラス（「検証」または「是正・予防処置」）を選択します。
4. 「QCR 番号」フィールドで表示された番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
5. 「OK」をクリックします。

Agile Java クライアントが QCR を作成し、QCR が編集モードで「カバー・ページ」とともに表示されます。

WebクライアントでPSRまたはアイテムからQCRを作成するには

1. 既存のアイテムを開きます。「カバー・ページ」が表示されます。
2. 「カバー・ページ」で「アクション」ボタンをクリックします。
3. ドロップダウン・メニューから「新規作成」>「品質変更要求」の順に選択します。「新規作成」ダイアログ・ポックスが表示されます。
4. 「タイプ」リストから目的のサブクラス（「検証」または「是正・予防処置」）を選択します。
5. 「QCR 番号」フィールドで表示された番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。

Agile Web クライアントが QCR を作成し、QCR が編集モードで「カバー・ページ」とともに表示されます。

作成したQCRは、ユーザーが削除するまでシステムに残ります。QCRを削除しても、Agileデータベースからは削除されません。システムからQCRを完全に削除するには、ハード削除が必要があります。QCRの削除の詳細は、69 ページの「[Agileオブジェクトの削除](#)」を参照してください。

PSRからのQCRの作成

PSR から QCR を作成すると、製品サービス依頼に対して是正処置を実施できます。PSR または個別アイテムから直接 QCR を作成できます。Web クライアントの「アクション」メニューおよび Java クライアントの「詳細」ボタンを使用して QCR を作成できます。QCR を使用すると、問題をルーティング可能な品質記録に集約して根本原因不良分析を実行し、標準の CAPA (是正・予防処置) の手順を使用して問題を解決できます。

JavaクライアントでPSRからQCRを作成するには

- 既存の **PSR** を開きます。
- 「詳細」ボタン  をクリックします。
- ドロップダウン・メニューから「品質変更要求(QCR)の作成」を選択します。
- 「新規」ダイアログ・ボックスが表示されます。目的のサブクラス・タイプ（「検証」または「是正・予防処置」）を選択します。
- 「QCR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
- 「OK」をクリックします。

QCR が編集モードで開きます。

WebクライアントでPSRからQCRを作成するには

- 既存の **PSR** を開きます。
- 「アクション」メニューをクリックします。
- 「品質変更要求(QCR)の作成」オプションを選択します。
- 「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。「タイプ」リストから目的のサブクラス（「検証」または「是正・予防処置」）を選択します。
- 「QCR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
- 「保存」をクリックします。

QCR (検証または是正・予防処置) が編集モードで開きます。

QCRの「カバー・ページ」タブ

次の表では、**QCR** の「カバー・ページ」タブのフィールドについて説明します。

フィールド	設定方法	内容
QCR 番号	作成時に自動入力	QCR の作成時に割り当てられる番号。
QCR タイプ	作成時に自動入力	QCR の作成時に選択したサブクラスのタイプ。
カテゴリ	手動	Agile PLM 管理者によって定義されたカテゴリのリスト。
説明	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)	QCR の説明。管理者が最大バイト数を設定します。スペースと改行 (2 バイト) を含め 4,000 バイトまで入力できます。

理由	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)	QCR を作成する理由。管理者が最大バイト数を設定します。スペースと改行 (2 バイト) を含め 4,000 バイトまで入力できます。
顧客	手動	QCR に関する顧客。
サプライヤ	手動	QCR に関するサプライヤのリスト。 たとえば、サプライヤがプロセス、製品、その他の部分の問題を解決する必要がある場合、SCAR を開始できます。
ワークフロー	通常は手動で選択。QCR にワークフローを割り当てていない場合は、「未割当」ステータスのままであります。 ワークフローを割り当てずに QCR を次のステータスに移行すると、ワークフローを選択するように促されます。QCR が「保留中」ステータスであるかぎり、ワークフローはいつでも変更できます。	品質管理プロセスに従ってこの QCR を、処理するために使用するワークフローの名前。
品質管理者	リストから選択。リストには最初に部署、次に個々のユーザー名が表示されます。	デフォルトの品質管理者。 注意: デフォルトの品質管理者ではなく別の品質管理者を選択すると、「選択した品質管理者はデフォルトではありません。デフォルトのリストは次のとおりです。デフォルトの品質管理者ユーザー名 (ユーザーID)」というメッセージが表示されます。 ワークフローがデフォルトの品質管理者に通知するよう定義されている場合、このフィールドのユーザー・グループまたはユーザーは QCR に関する通知を受信します。このフィールドを空白にすると、リストのすべての品質管理者に通知が送信されます。ワークフローの通知定義が空白の場合、通知は送信されません。
ステータス	作成時に自動入力。QCR がワークフローを通過するのに従って更新されます。	ワークフロー・ステータス。ワークフローが選択されていない場合、このフィールドには「未割当」ステータスが表示されます。
作成者	通常は作成時に自動入力 (Agile PLM 管理者が設定するデフォルト値)	QCR の作成者。
作成日	通常は作成時に自動入力	QCR を作成した日付。
提出日	ワークフロー・ステータスに基づいて自動生成	QCR がワークフローで「提出済」ステータスに移行した日付。

リリース日	ワークフロー・ステータスに基づいて自動生成	QCR がワークフローで最初の「リリース済」ステータスに移行した日付。
最終完了日	QCR が「完了」ステータスに移行した際に自動入力	QCR が「完了」ステータスに移行した日付。
予防策	通常は手動入力（デフォルトの使用が可能）。 Agile PLM 管理者が最大バイト数を設定します。スペースと改行（2 バイト）を含め 4,000 バイトまで入力できます。	問題が再発しないようにするための事前処置。CAPA にのみ適用されます。
根本原因分析	手動 Agile PLM 管理者が最大バイト数を設定します。スペースと改行（2 バイト）を含め 4,000 バイトまで入力できます。	問題の根本原因。CAPA にのみ適用されます。
検証予定日	手動。このフィールドは、次の前提条件の設定時に表示されます。 注意 Java クライアントで「管理」タブをクリックします。「データ設定」>「クラス」>「品質変更要求」>「検証」>「カバー・ページ」>「検証予定日」にナビゲートします。 注意 「検証予定日」を「表示」に設定します。 「検証予定日」属性の読み取り/変更権限を持っていることを確認します。	問題を検証する予定日。
検証結果	通常は手動入力（デフォルトの使用が可能） たとえば、CAPA を実施するときに、品質分析者は検証を実行して、CAPA が実際に問題を解決することを確認します。問題の解決が確認されると、結果は合格となります。それ以外は失敗となり、品質分析者は「検証結果」フィールドを更新します。	検証プロセスの結果。検証結果のデフォルト設定は、合格/失敗です。他の設定の詳細は、Agile 管理者にお問い合わせください。

製品ライン	通常は手動入力(デフォルトの使用が可能)	Agile管理者によって定義された製品ラインのリスト。
-------	----------------------	-----------------------------

QCRのカバー・ページの更新

QCRを作成した後、追加情報を指定してQCRを変更したり、QCRの作成後に変更された情報を編集できます。

(JavaクライアントおよびWebクライアント) QCRの「カバー・ページ」を更新するには

1. 編集する QCR を開きます。
2. 「編集」ボタンをクリックします。
3. 該当するフィールドを変更します。テキストを入力するか、ドロップダウン・リストまたはパレットを使用して QCR を編集できます。
4. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

注意 Web クライアントでは、QCR を編集して保存した後、変更が正常に保存されたというメッセージがメッセージ・バーに表示されます。

「カバー・ページ」に QCR の更新内容が表示されます。

QCRの「対象アイテム」タブ

「対象アイテム」テーブルには、QCR の影響を受けるアイテムが一覧表示されます。QCR の「対象アイテム」タブには、「対象アイテム」テーブルと「PSR アイテム」テーブルが含まれます。

次の表では、「対象アイテム」タブのデフォルトのフィールドについて説明します。

フィールド	設定方法	内容
アイテム番号	作成時に自動入力	対象アイテムの番号。
アイテムの説明	作成時に自動入力	アイテムの説明。
アイテム・リビジョン	手動	問題が見つかった対象アイテムのリビジョン。 たとえば、アイテムが5回改訂され、リビジョンBで欠陥が特定された場合、「アイテム・リビジョン」には、「B」が表示されます。 注意: アイテムの複数のコピーを同一リビジョン番号で QCR の「対象アイテム」タブに追加できます。
対象拠点	作成時に自動入力	問題が見つかった拠点。
画像	作成時に自動入力	PSR アイテムの存在。

「対象アイテム」タブのページには、「対象アイテム」と「PSR アイテム」テーブルがあります。「表示」と「ペソナライズ」メニューは、両方のテーブルに表示されます。

注意 「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義していくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

「PSR アイテム」テーブルには、この QCR に関連する PR および NCR レポートで参照されるアイテムが表示されます。関係ルールに PSR に影響を与える QCR がある場合、このテーブルには自動的に値が入力されます。

- PSR を QCR 「関係」タブに追加し、QCR が PSR に影響する箇所にルールを追加して、PSR を QCR と関連付けます。
- QCR を PSR 「関係」タブに追加し、QCR が PSR に影響する箇所にルールを追加して、PSR を QCR と関連付けます。
- PSR から QCR を作成します。

次の表に、「対象アイテム」タブの「PSR アイテム」テーブルに表示されるデフォルトのフィールドを示します。

フィールド	設定方法	内容
アイテム番号	作成時に自動入力	対象アイテムの番号。
アイテムの説明	作成時に自動入力	アイテムの説明。
アイテム・リビジョン	手動	問題が見つかった対象アイテムのリビジョン。
対象拠点	作成時に自動入力	問題が見つかった拠点。
PSR 番号	作成時に自動入力	QCR に関する PSR の番号。

注意 「アイテム番号」フィールドは、「パーソナライズ」メニューで選択した並替え順序に応じて、テーブルの昇順 または降順 を示します。

QCRの「関係」タブ

「関係」タブを使用すると、現在の QCR とルーティング可能なオブジェクトおよびライフサイクル・オブジェクトの間に関係と依存を作成できます。

PSR から QCR を作成すると、次の処理が行われます。

- QCR の「関係」テーブルに PSR がコピーされる
- PSR の「関係」テーブルに QCR がコピーされる

QCR イベントの発生時に、PSR をワークフロー内の特定のステータスに移行させるようにイベント・トリガーを設定できます。

QCR の「関係」タブは PSR と似ています。34 ページの「[「関係」タブ](#)」も参照してください。

詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

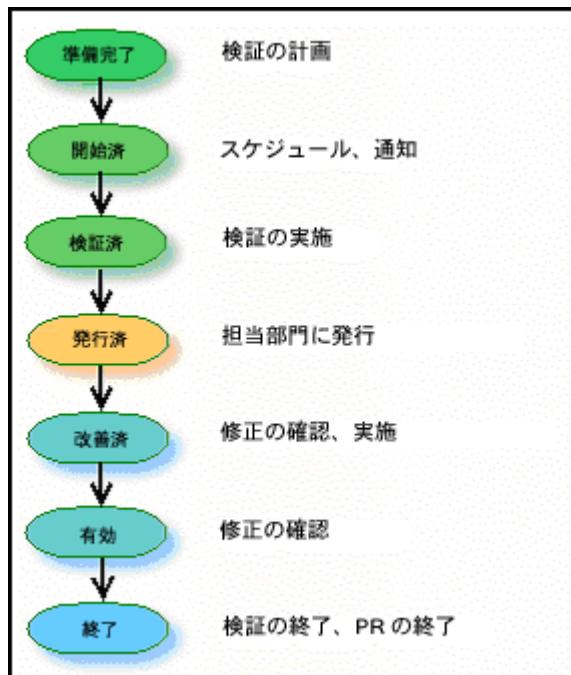
QCRの「ワークフロー」タブ

「ワークフロー」タブには、「カバー・ページ」で選択したワークフローのフローチャートが表示されます。Agile PLM ワークフローとは、ルーティング可能なオブジェクトが従うステータスの流れで、品質管理プロセス内の様々なステータスで構成されています。オレンジの背景色(Web クライアント)または黄色の背景色(Java クライアント)が、現在のステータスです。「サインオフ履歴」テーブルには、QCR の過去のワークフローとサインオフの情報が表示されます。

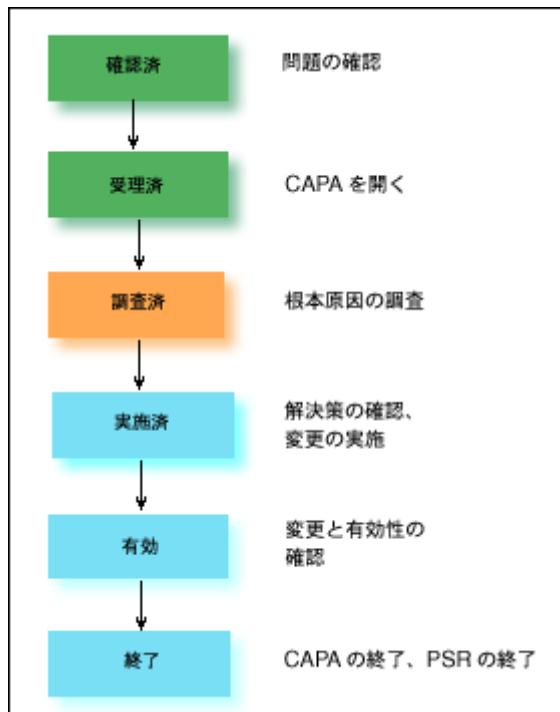
「ワークフロー」タブのページには、「表示」および「パーソナライズ」ボタンがあります。「表示」および「パーソナライズ」メニューの詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

注意 「デフォルトの検証」および「デフォルトのは是正・予防処置」のワークフロー・ステータスは、他のルーティング可能なオブジェクトとは異なることに注意してください。

検証ワークフローのステータスは「準備完了」、CAPA のステータスは「確認済」で開始します。



次の表に、デフォルトの CAPA のステータスを示します。



詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

QCRを提出、ルートする

QCR を提出するには、「次のステータス」ボタンを使用します。このプロセスは、その他のルーティング可能なオブジェクトを提出する場合と同じです。**QCR** のステータスを切り替える前に、切替えを妨げるエラーがないかどうか、ルーティング可能なオブジェクトを必ず検証してください。**QCR** を提出すると、品質管理者にも電子メールで通知されます。品質管理者は、受信トレイの「ワークフロー・ルーティング」部分または「品質検索」フォルダで最近提出された **QCR** も検索できます。

詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

QCRの「添付ファイル」タブ

QCR の「添付ファイル」タブからファイルおよび添付ファイルを参照できます。**QCR** の「添付ファイル」タブは**PSR**と似ています。詳細は、46 ページの「[PSRの「添付ファイル」タブ](#)」を参照してください。

第 4 章

製品サービス依頼の管理

この章のトピック

■ 製品サービス依頼の承認または却下	61
■ PSRを終了する	62
■ PSRの「アクション」メニュー	62
■ PSRのステータスの検証	62
■ PSRのリリースの検証	63

この章のトピック

- 61 ページの「[製品サービス依頼の承認または却下](#)」
- 62 ページの「[PSRを終了する](#)」
- 62 ページの「[PSRの「アクション」メニュー](#)」
- 62 ページの「[PSRのステータスの検証](#)」
- 63 ページの「[PSRのリリースの検証](#)」

製品サービス依頼の承認または却下

PSR を承認または却下するには、PSR の承認者であることと PSR 管理者の役割を持つている必要があります。追加の権限が必要な場合は、Agile 管理者に問い合わせてください。

PSRを承認するには

1. PSR を開きます (PSR が「レビュー」または「リリース済」ステータスであることを確認します)。
2. タブの上にある「承認」ボタンをクリックします。レビューの承認ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「ユーザー」フィールドは事前に入力されています。
4. ユーザーが指定した「パスワード」を入力します。このフィールドは必須です。
5. 通知する「品質分析者」と「作成者」を選択します。
6. パレットを使用して「レビュア」を追加します。
7. 必要に応じて「コメント」を追加します。
8. このアクションによって送信される通知を「緊急」としてマークするには、「緊急通知の送信」チェック・ボックスを選択します。
9. 「承認」をクリックします。
10. 「完了」をクリックします。

PSRを却下するには

1. PSR を開きます (PSR が「レビュー」または「リリース済」ステータスであることを確認します)。
2. タブの上にある「却下」ボタンをクリックします。「レビューの却下」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. ユーザーが指定した「パスワード」を入力します。このフィールドは必須です。
4. 通知する「品質分析者」と「作成者」を選択します。
5. パレットを使用して「レビュア」を追加します。

6. 必要に応じて「コメント」を追加します。
7. このアクションの結果として送信される通知を「緊急」としてマークするには、「緊急通知の送信」チェック・ボックスを選択します。
8. 「却下」ボタンをクリックします。
9. 「完了」をクリックします。

PSRを終了する

PSRを終了（PSRを「完了」ステータスに昇格）するには

- PSR を手動で終了します（適切な権限がある場合）。
- ルールの条件が満たされたときに PSR のステータスが「終了」になるように、PSR の「関係」タブでそのルールを設定します。

PSRの「アクション」メニュー

「アクション」メニューには、PSR で実行可能なアクションのリストが表示されます。

ブックマーク: 将来取り出すために、PSR をブックマークとして保存します。

確認通知: 確認通知により、テーブルの変更またはオブジェクトの属性が通知されます。

名前を付けて保存: 現在の PSR のコピーを作成し、同じサブクラスまたは異なるサブクラスに保存します。

削除: PSR を削除します。

送信: PSR を必要な役割と権限を持つ他のユーザーに送信します。緊急として通知を送信するオプションを使用できます。

共有: ユーザーは、自分と同等のアクセス権限を他のユーザーに付与できます。

URL をクリップボードにコピー: 任意の場所に貼り付けられるように、オブジェクトの URL をクリップボードにコピーします。

ステータスの検証: オブジェクトのステータスを検証し、ワークフローを続行できるかどうかを確認します。

リリースの検証: 既存のワークフロー・ステータスを使用してオブジェクトをリリースできるかどうかを検証します。

ワークフローの表示: PSR のワークフロー・ステータスを表示できます。

印刷: PSR を印刷します。

エクスポート: PSR を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel Notebook または XML ファイルにエクスポートします。

品質変更要求(QCR)の作成: PSR で品質変更要求を作成できます。

PSRのステータスの検証

PSR のステータスを検証し、ワークフローを次のステータスに移行できるかどうかを確認します。PSR のワークフローを次のステータスに自動昇格する必要がある場合は、検証が自動的に実行されます。

JavaクライアントでPSRのステータスを検証するには

1. 検証する必要がある PSR を開きます。
2. 上部の「検証」ボタンをクリックするか、ウィンドウを右クリックし、表示されるメニューから「ステータスの検証」を選択します。

3. 「ステータスの検証の検証結果」ダイアログ・ボックスが表示されます。必要に応じてエラーを修正します。
4. 「OK」をクリックします。

WebクライアントでPSRのステータスを検証するには

1. 検証する必要がある PSR を開きます。
2. 「アクション」メニューをクリックし、「ステータスの検証」を選択します。
3. メッセージ・バーに、必要に応じてエラーを修正するように通知するメッセージが表示されます。
4. 「閉じる」をクリックします。

PSRのリリースの検証

PSR がリリース・ステータスに昇格されると、「リリースの検証」が自動的に実行されます。「リリースの検証」では、PSR の設定が「リリース」ステータスの設定と一致するかどうかが検証されます。

(例: 必須エントリ・フィールド、条件に一致するステータス)

「ワークフロー」タブの「次のステータス」ボタンを使用して PSR をリリースできます。前の「レビュー」ステータスで、「自動昇格」プロパティが「はい」に設定されている場合、ルーティング可能なオブジェクトがリリースされます（すべての承認者によって変更が承認された場合は自動的にリリース）。

PSR をリリースする前に、検証してリリースの検証に合格する必要があります。各ステータス・レベルで、次の検証が確認されます。

□ ステータスが「保留中」、「レビュー」、「リリース済」または「完了」の場合

現在のステータス・レベルでの必須フィールド（必須フィールドは、Agile 管理者がワークフローのプロパティ設定で指定します）。

□ 「レビュー」ステータスの場合

すべての承認者の承認がチェックされます。

□ 「リリース済」ステータスの場合

現行のすべてのリリース検証ルールがチェックされます。

PSR のリリース方法の詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

JavaクライアントでリリースのためにPSRを検証するには

1. リリースのために検証する PSR を開きます。
2. 「リリースの検証」ボタンをクリックするか、Agile Java クライアント・ウィンドウを右クリックします。表示されるメニューから「リリースの検証」をクリックします。「リリースの検証の検証結果」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 必要に応じてエラーを修正し、再び検証します。
4. 「OK」をクリックして「検証結果」ダイアログ・ボックスを閉じます。

WebクライアントでリリースのためにPSRを検証するには

1. リリースのために検証する PSR を開きます。
2. 「アクション」>「リリースの検証」の順に選択します。
3. 必要に応じてエラーを修正し、再び検証します。
4. 「閉じる」をクリックします。

QCR を管理する

この章のトピック

▪ 品質変更要求の承認または却下	65
▪ QCRを終了する.....	66
▪ QCRの「アクション」メニュー	66

この章のトピック

- 65 ページの「[品質変更要求の承認または却下](#)」
- 66 ページの「[QCRを終了する](#)」
- 66 ページの「[QCRの「アクション」メニュー](#)」
- 66 ページの「[QCRの変更指示](#)」

品質変更要求の承認または却下

QCR の承認者として指定されている場合、特定のアイテムに対する検証または是正処置を確認する必要があります。詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

QCR を承認または却下するには、適切な権限があり、次の条件を満たしている必要があります。

- QCR のステータスが「レビュー」または「リリース済」タイプであることが必要です。
- そのステータスで承認または却下するための権限が必要です。
- 承認者またはオブザーバとして QCR リストに登録されている必要があります。

WebクライアントでQCRを承認するには

1. 承認する QCR を開きます。
2. 「承認」ボタンをクリックします。「承認」ウィザードが表示されます。
3. 「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。
4. 作成者、品質分析者およびレビューアに通知する場合は、チェック・ボックスを選択します。
5. QCR を承認したことをユーザーまたはユーザー・グループに通知することもできます。
6. 「検索」パレットをクリックし、通知するユーザーを選択します。
7. 「コメント」フィールドに承認者のコメントを入力します。コメントは必須ではありません。「コメント」を有効にするには、Java クライアントで「却下に関するコメント」を「可」に設定する必要があります。
詳細は、『Agile Product Lifecycle Management 管理者ガイド』の「ワークフロー」を参照してください。
8. 「承認」をクリックします。

QCR が適切でない場合、却下することもできます。たとえば、チームが行った是正処置を品質管理者が適切でないと判断した場合、品質管理者は処置を却下できます。

WebクライアントでQCRを却下するには

1. 却下する QCR を開きます。
2. 「却下」ボタンをクリックします。「却下」ウィザードが表示されます。

3. 「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。
4. 作成者、品質分析者およびレビューに通知する場合は、チェック・ボックスを選択します。
5. 「検索」パレットをクリックし、通知するユーザーを選択します。
6. 「コメント」フィールドに承認者のコメントを入力します。コメントは必須ではありません。Java クライアントで「却下に関するコメント」を「可」に設定する必要があります。
詳細は、『Agile Product Lifecycle Management 管理者ガイド』の「ワークフロー」を参照してください。
7. 「却下」ボタンをクリックします。

QCRを終了する

QCRを終了（QCRを「完了」ステータスに昇格）するには

- QCR を手動で終了します（適切な権限がある場合）。
- ルールの条件が満たされたときに QCR のステータスが「終了」になるように、QCR の「関係」タブでそのルールを設定します。

一般に、QCR に関連する変更または ECO をリリースすると、品質管理者はその QCR を解決して終了できるかどうかを判断します。

QCRの「アクション」メニュー

「アクション」メニューには、QCR で実行可能なアクションのリストが表示されます。

ブックマーク: 将来取り出すために、QCR をブックマークとして保存します。

確認通知: 確認通知により、テーブルの変更またはオブジェクトの属性が通知されます。

名前を付けて保存: 現在のオブジェクトのコピーを作成し、同じサブクラスまたは異なるサブクラスに保存します。

削除: QCR を削除します。

URL をクリップボードにコピー: 任意の場所に貼り付けられるように、オブジェクトの URL をクリップボードにコピーします。

ステータスの検証: オブジェクトのステータスを検証し、ワークフローを続行できるかどうかを確認します。

リリースの検証: 既存のワークフロー・ステータスを使用してオブジェクトをリリースできるかどうかを検証します。

印刷: QCR を印刷します。

エクスポート: QCR を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックまたは XML ファイルにエクスポートします。

送信: QCR を必要な役割と権限を持つ他のユーザーに送信します。緊急として通知を送信するオプションを使用できます。

共有: ユーザーは、自分と同等のアクセス権限を他のユーザーに付与できます。

変更の作成: QCR から直接変更を作成できます。

ワークフローの表示: QCR のワークフロー・ステータスを表示できます。

QCRの変更指示

QCR から直接変更を作成することで、変更指示をリリースして、問題を解決できます。QCR から作成した変更は、QCR の「関係」タブに表示されます。

JavaクライアントでQCRから変更を作成するには

1. QCRの「カバー・ページ」で、右クリックして「**変更の作成**」を選択します。
2. 「**タイプ**」リストから変更のオブジェクト・タイプ（「MCO」、「ECO」、「ECR」、「期限付き変更指示」または「出荷停止」）を選択します。
3. 「**番号**」フィールドで番号を入力するか、「**自動採番**」ボタンをクリックして番号を生成します。
4. 「対象アイテムを変更に追加」テーブルに、QCRおよびPSRのすべての対象アイテムが表示されます。「**対象アイテム**」と「**PSRアイテム**」のリストからアイテムを選択します。すでに変更に関連付けられているアイテムもこのリストに表示されるため、1つのアイテムに関連付けられた複数の変更を開始できます。リストには一意なアイテムが表示されます（アイテムが「対象アイテム」と「PSRアイテム」の両方に現れる場合、そのアイテムがリストに表示されるのは1度のみです）。
5. 「**OK**」をクリックします。

Agile Java クライアントによって変更が作成され、QCR の「**関係**」タブに追加されます。選択されたアイテムは変更の「対象アイテム」タブにコピーされます（このため、QCR がそれぞれに異なるアイテムを含む複数の変更に分割されます）。

WebクライアントでQCRから変更を作成するには

1. QCRを開いて、「アクション」>「**変更の作成**」メニュー・オプションを選択します。
2. 「新規作成」ダイアログ・ボックスで、サブクラス・リストから変更のオブジェクト・タイプ（「MCO」、「ECO」、「ECR」、「期限付き変更指示」または「出荷停止」）を選択します。
3. 「**番号**」フィールドで番号を入力するか、「**自動採番**」ボタンをクリックして番号を生成します。
4. 「**作成日**」フィールドは事前に入力されています。
5. バージョンを追加するには、「**検索**」パレットをクリックします。
6. 対象アイテムを追加するには、「**検索**」パレットを使用します。オブジェクトを「**対象アイテム**」フィールドに移動するには、オブジェクトを選択してダブルクリックします。
7. 「**閉じる**」をクリックします。
8. 「**保存**」をクリックします。

Agile Web クライアントによって変更が作成され、QCR の「**関係**」タブに追加されます。選択されたアイテムは変更の「対象アイテム」タブにコピーされます（このため、QCR がそれぞれに異なるアイテムを含む複数の変更に分割されます）。

付録 A

Agile オブジェクトの削除

Java クライアントおよび Web クライアントは、多くの Agile オブジェクト・クラスの「ソフト」削除と「ハード」削除をサポートしています。データベース内のオブジェクトをソフト削除しても、完全には削除されません。ソフト削除されたオブジェクトはデータベース内で「削除済」としてマークされ、オブジェクト番号または名前は保持されます。ソフト削除されたオブジェクトと同じタイプおよび番号または名前を持つ別のオブジェクトを作成することはできません。

検索を実行しても、ソフト削除されたオブジェクトは検索結果テーブルには表示されません。ソフト削除されたオブジェクトを検索するには、「削除済オブジェクト検索」フォルダで事前に定義された削除済オブジェクト検索を実行する必要があります。

注意 ユーザー・プロファイルの「検索」フィールドに、「削除済オブジェクト検索」が含まれている場合、「削除済オブジェクト検索」フォルダにアクセスできます。適切な権限がある場合、ユーザー・プロファイルを編集し、「検索」フィールドの検索のリストに「削除済オブジェクト検索」を追加できます。ユーザー・プロファイルの「検索」フィールドを変更するための適切な権限がない場合は、Agile 管理者にユーザー・プロファイルを変更するように依頼してください。

ハード削除されたオブジェクトは、データベースから完全に削除されます。

注意 ハード削除されたオブジェクトの削除を取り消すことはできません。

Agile オブジェクトのソフト削除、ハード削除、または削除取消しを行うには

- そのオブジェクトの適切な削除権限または削除取消し権限が必要です。
- すべての関係と確認通知を削除する必要があります。
- オブジェクトは、削除または削除取消しできるかどうかを決定する追加条件を満たしている必要があります。

通常、オブジェクトの削除または削除取消しによってデータ整合性が失われる可能性がある場合、削除または削除取消しアクションは無効になります。

PSR オブジェクトまたはQCR オブジェクトの削除に関する注意事項

製品サービス依頼 (PSR) オブジェクトまたは品質変更要求 (QCR) オブジェクトを削除する前に、次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者によって、適切な削除権限を持つ役割が割り当てられている。
- すべての関係と確認通知が削除されている。
- PSR または QCR が「保留中」ステータスまたは「未割当」ステータスになっている。
- 「対象アイテム」テーブルのアイテムのディスカバリ権限と読み取り権限を持っている。権限がない場合は、PSR および QCR は削除できません。

注意 すでにリリースされている PSR または QCR を削除するには、まず未リリースにする必要があります。「ワークフロー」タブを使用して PSR または QCR を別のステータスに切り替えるには、未リリースにするための適切な権限が必要です。

次の場合、PSR は削除できません。

- PSR が QCR の「関係」タブに表示されている。
- PSR が現在、是正処置プロセスの一部である。PSR を QCR から削除してから、PSR を削除します。
- PSR が別の PSR の「関連 PSR」タブに表示されている。
- PSR が現在、より大きな問題の一部である。この PSR を親 PSR から削除してから、PSR を削除します。
- PSR が「関連 PSR」タブに表示されている。
- PSR が複数の問題を集約するために使用されている。関連 PSR を削除してから、PSR を削除します。

次の場合、QCR は削除できません。

- QCR の「関係」タブに PSR が存在する。
- 是正処置プロセスに問題レポートが含まれている。PSR を QCR から削除してから、QCR を削除します。
- QCR の「関係」タブに変更が存在する。
- 設計変更を通じて是正処置プロセスがすでにルートされている。変更を QCR から削除してから、QCR を削除します。

この章のトピック

- 70 ページの「[オブジェクトのソフト削除](#)」
- 70 ページの「[オブジェクトの削除の取消し](#)」
- 71 ページの「[オブジェクトのハード削除](#)」

オブジェクトのソフト削除

オブジェクトをソフト削除すると、そのオブジェクトは使用できなくなります。ただし、オブジェクトの番号または名前は、オブジェクトがハード削除されるまで Agile データベース内に保管されるため、他で使用することはできません。

Java クライアントでオブジェクトをソフト削除するには

1. 削除するオブジェクトを選択して開きます。
2. 「削除」ボタン  をクリックし、確認プロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。

オブジェクトがソフト削除されます。

Web クライアントでオブジェクトをソフト削除するには

1. 削除するオブジェクトを選択して開きます。
2. 「アクション」>「削除」の順に選択し、確認プロンプトが表示されたら「OK」をクリックします。

オブジェクトがソフト削除されます。

「Agile オブジェクトの削除」の 70 ページの「[オブジェクトの削除の取消し](#)」および 71 ページの「[オブジェクトのハード削除](#)」も参照してください。

オブジェクトの削除の取消し

適切な権限がある場合、ソフト削除されたオブジェクトの削除を取り消すことができます。

Javaクライアントでオブジェクトの削除を取り消すには

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、適切な削除済<オブジェクト>検索を実行します。
2. 復元する削除済オブジェクトを開きます。
3. 「削除取消」ボタン  をクリックします。

Webクライアントでオブジェクトの削除を取り消すには

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、適切な削除済<オブジェクト>検索を実行します。
2. 復元する削除済オブジェクトを開きます。
3. 「アクション」>「削除取消」の順に選択します。

注意 検索結果テーブルの「ナビゲータ」ボタンをクリックすると、左側のウィンドウの  「ナビゲータ」ドローワーに検索結果オブジェクトへのリンクが表示されます。

「Agileオブジェクトの削除」の 70 ページの「[オブジェクトのソフト削除](#)」および 71 ページの「[オブジェクトのハード削除](#)」も参照してください。

オブジェクトのハード削除

ソフト削除されたオブジェクトは、データベースにまだ存在しています。オブジェクトを完全に削除するには、ハード削除が必要があります。一方、オブジェクトに対してソフト削除のみを実行した場合、そのオブジェクトの削除を取り消すことができます。「削除済オブジェクト検索」フォルダから、適切な削除済オブジェクト検索を実行します。

Javaクライアントでソフト削除されたオブジェクトをハード削除するには（適切な権限がある場合）

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、適切な削除済<オブジェクト>検索を実行します。
2. オブジェクトを開きます。
3. 「オブジェクトの削除」ボタン  をクリックし、確認プロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。

Webクライアントでソフト削除されたオブジェクトをハード削除するには（適切な権限がある場合）

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、適切な削除済<オブジェクト>検索を実行します。
2. 検索結果テーブルの 1 つ以上のオブジェクト行を選択します。
3. 「削除」ボタンをクリックします。
4. 警告プロンプトが表示されたら、「続行」を選択し、「完了」をクリックします。
5. 1 つのオブジェクトを一度にハード削除することもできます。
 - オブジェクトを開きます。
 - 「アクション」>「削除」の順に選択し、確認プロンプトが表示されたら「OK」をクリックします。

注意 検索結果テーブルの「ナビゲータ」ボタンをクリックすると、左側のウィンドウの  「ナビゲータ」ドローワーに検索結果オブジェクトへのリンクが表示されます。

「Agileオブジェクトの削除」の 70 ページの「[オブジェクトの削除の取消し](#)」および 70 ページの「[オブジェクトのソフト削除](#)」も参照してください。